第１３回
日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
プログラム・抄録

テーマ：

「医療 DX　- 今後の医療と働き方を考える - 」

日　　時　■　2023 年９月 30 日（土曜日）９：30～１７：00
会　　場　■　テクスポート今治　２階中ホール
会場　住所　■　〒794-0033 愛媛県今治市東門５丁目 14―3
☎0898―23―8700

学術集会会長　■　社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院 院長　松野　剛

Better Health,
Brighter Future

タケダは、世界中の人々の健康と、
輝かしい未来に貢献するために、
グローバルな研究開発型のバイオ医薬品企業として、
革新的な医薬品やワクチンを創出し続けます。

1781 年の創業以来、受け継がれてきた価値観を大切に、
常に患者さんに寄り添い、人々と信頼関係を築き、
社会的評価を向上させ、事業を発展させることを日々の行動指針としています。

武田薬品工業株式会社
www.takeda.com/jp

「第１３回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会」開催にあたって
◆ 学術集会会長あいさつ

第 13 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会会長
松野　剛（社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院 院長）

テーマ：医療 DX　―今後の医療と働き方を考える―

第 13 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会を開催するにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

新型コロナウィルス感染症が流行し、早くも３年が経過しました。多くの病院は新型コロナウィルス感染症との戦いに苦労し、やっと出口が見えてきたかなといったところでしょう。新型コロナウィルス感染症により医療の問題が数年～十数年分早く押し寄せてきたように感じます。日本の人口減少と高齢化は地方の中小医療機関にとって一番の問題となり、特に新型コロナウィルス感染症に対し重点医療機関になった病院では、患者対応と共に職員の新型コロナウィルス感染症による職員配置の困難さに直面しました。

今後、問題になってくる医療人材の不足を補い、医療職の働き方を改善する可能性の一つがデジタルトランスフォーメーション（DX）ではないかと考えます。電子カルテの導入の際には紙カルテの保管と配送などの手間が省けるのみで、事務職員数を大幅に減らすことはできませんでした。しかし、電子カルテの利便性の高さは大きな利点であり、情報共有や多くの場所からもアクセスが可能であり、もはや紙カルテへ戻ることは困難です。多くの病院でデジタル技術を生かした効率的な改革が進められようとしています。このような中で当学術集会を開催することは多くの知識や気づきをもたらしてくれるものと期待しています。特別講演は全国約 80 の済生会病院の中でデジタル技術の活用で一歩も二歩も先行している済生会熊本病院院長の中尾浩一先生をお招きして医療の DX についてお話していただく予定です。

今回は久しぶりの対面での集会を予定しています。今治市で多くの皆様の参加と討論を行うことができることを楽しみにしています。

「第 13 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会」開催にあたって
◆ 愛媛県支部支部長あいさつ

櫃本　真聿（日本医療マネジメント学会愛媛県支部支部長・四国医療産業研究所所長）

長い３年間でしたが、ようやく COVID-19（コロナ）の呪縛から徐々にではありますが解放されつつあります。この間医療マネジメント分野においても、苦難の経験から多くの学びがありました。一見に元に戻っているようですが、“360 度のループ回転”を経て、全く別のレベルに至っており、もうコロナ禍前の状態に戻れないことを痛感しています。コロナがもたらした 10 年以上とも言われる時代を速めた“チャンス”を、いかに今後の医療マネジメントに活かしていくかが問われます。

さて 2023 年度第 13 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会ですが、松野剛総会長のもと、済生会今治病院の主催で、９月 30 日（土曜日）、テクスポート今治で開催する運びとなっております。テーマは「医療 DX - 今後の医療と働き方を考える - 」であり、特別講演には、中尾浩一先生（済生会熊本病院院長）をお招きし、「医療 DX がもたらすパラダイムシフト～「価値中心の医療」を探る～」という演題でお話をいただきます。コロナ禍がもたらした変化を代表するのが DX 分野であり、まさに時を得たテーマとして興味深く、３年ぶりの対面での総会で、共に学べることを楽しみにしております。

アナログ情報をデジタル化する「デジタイゼーション」から、プロセス全体もデジタル化し新たな価値を創造する「デジタライゼーション」、そして、その結果として社会的な影響を生み出す「デジタルトランスフォーメーション DX」へ、デジタル技術を社会に浸透させて 人々の生活をより良い状況へ導くツールとして進化してきました。そしてデータの集約による効率化やエビデンス化が進む一方で、パーソナライズ化がますます進行し、個々人に適合した情報がセルフケア支援に活かされていくことでしょう。

既にショッピング分野においては、我々の買い物検索や情報の収集・発信状況から、AI 機能が活用され、個々が求めているものを把握・分析し、その行動を後押しするような情報提供が、今や日常的に行われています。それに比べれば、行政や医療・介護分野の DX の立ち遅れは明らかですが、近い将来大きな波がやってくることは間違いありません。自分らしい生き方を実現するために適切な情報が提供され、セルフケアを支援していく方向へと進化していく将来を、ワクワクしながらイメージしています。

我々自身がこの変化を受けとめ、正しく適切に活用していく意識と行動が求められています。例えば、リフィル処方箋は、調剤薬局を拠点として、患者が医療に参画しセルフケア意識の向上を促す狙いがあります。そこに電子処方箋が加わり、「自身の保健医療情報を活用できる仕組み」が拡充されることで、PHR（Personal Health Record）として、個々の患者の状況をより正確に具体的に把握することが可能になります。調剤薬局が「かかりつけネットワーク」に参画し、患者のセルフケア向上へのサポート役を果す重要性を、医療者側・患者側共に理解を深めなければなりません。

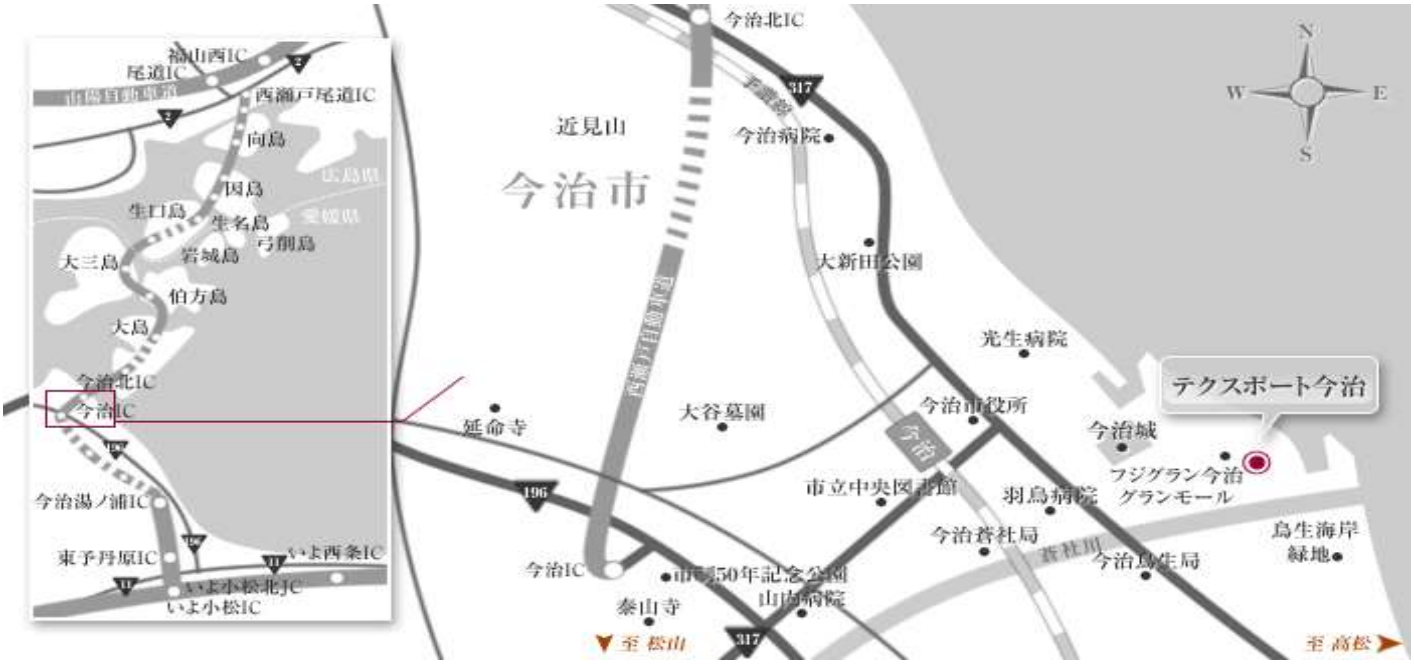
少子高齢社会を背景とした、地域包括ケアシステムも働き方改革（健康経営）も、目指している方向は同じであり、端的に示すと「個々人のパフォーマンスの向上」と言ってもよいと思います。すでに多くの企業で着手されていますが、行政はもちろんのこと、医療や介護関係機関においても、「パフォーマンスの向上」を狙いに、チャレンジ・チェンジが必要です。住民・患者が“してもらう主役”ではなく、“参加する主役”として、セルフケア力の向上や地域づくり活動等が全国に普及するよう、DX ツールを活かすなど、我々のマネジメント力が発揮されますことを心から期待しています。

2023 年９月 30 日

会場案内

◆会場へのアクセス

テクスポート今治　２階中ホール
〒794-0033　愛媛県今治市東門町５丁目 14 番３号
TEL：0898-23-8700



JR 今治駅から車で約 10 分
今治港から車で約５分
高速道：今治湯ノ浦 IC から車で約 20 分

◆会場ご案内

第 13 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会では、テクスポート今治を使用します。

プログラム

会　　場　テクスポート今治　２階中ホール
〒794-0033　愛媛県今治市東門町５丁目 14 番３号
TEL：0898-23-8700
FAX：0898-23-8702

会　　期　2023 年９月 30 日（土曜日）９：30～17：00

学術集会会長　松野　剛 （社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院 院長）

テーマ

医療 DX　－今後の医療と働き方を考える－

8：30～　日本マネジメント学会愛媛県支部役員会　【２階大会議室】

9：00～　開場・受付

9：30～ 9：35　日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
開会挨拶　松野　剛 （社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院 院長）

一般演題Ⅰ（午前）

9：40～10：40　一般演題（1）
座長：井口　利仁（社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院 副院長）

10：45～11：35　一般演題（2）
座長：崎田　智美（愛媛大学医学部附属病院 副院長兼看護部長）

11：35～11：40　休憩

11：40～12：00　日本医療マネジメント学会愛媛県支部総会
愛媛県支部長挨拶
　櫃本 真聿 （日本医療マネジメント学会愛媛県支部長）
議事討議（議長：支部長）
　進行事務局代表　古林 太加志 （十全総合病院 名誉院長）
第 12 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会 優秀演題賞
並びに奨励賞表彰

12：00～13：00　休憩・昼食（60 分）

まだないくすりを
創るしごと。

世界には、まだ治せない病気があります。

世界には、まだ治せない病気とたたかう人たちがいます。

明日を変える一錠を創る。

アステラスの、しごとです。

明日は変えられる。 astellas

アステラス製薬株式会社

www.astellas.com/jp/

13：00～14：00　特別講演
「医療 DX がもたらすパラダイムシフト～「価値中心の医療」を探る～」
演者：中尾　浩一　先生
（社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院 院長）
座長：松野　剛（社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院 院長）

14：00～14：05　休憩

一般演題Ⅱ（午後）
14：05～14：55　一般演題（3）
座長：西崎　統（社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院 副院長）

15：00～16：00　一般演題（4）
座長：青陽　光（社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院 副看護部長）

16：05～16：55　一般演題（5）
座長：宮池　次郎（社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院 副院長）

16：55～17：00　日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
閉会挨拶　松野　剛（社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院 院長）

学術集会参加費：　日本医療マネジメント学会会員　500 円
学会非会員　1,000 円
日本医療マネジメント学会愛媛県支部役員　1,000 円
※参加費は、当日受付にてお支払いください。
現金のみのお支払いとなります。

その他　：　当日、日本医療マネジメント学会愛媛県支部役員会並びに総会を行います。学会会員の皆様、是非ともご参加お願いします。なお学会会員の皆様だけでなく学会非会員の皆様の参加も歓迎致します。

連絡先　：　日本医療マネジメント学会愛媛県支部事務局
十全総合病院 名誉院長　古林　太加志
〒792-8586　愛媛県新居浜市北新町１番５号
TEL 0897-33-1818　FAX 0897-37-2124
メール　takobaya@shikoku.ne.jp

【カテゴリー】

クリティカルパス	1-1 作製・導入、1-2 電子化クリティカルパス、 1-3 アウトカム分析・バリアンス分析、1-4 その他
医療安全	2-1 インシデントレポート・ヒヤリハット報告、 2-2 安全管理、安全対策、2-3 危機管理、2-4 カルテレビュー、 2-5 安全教育・研修、2-6 コンフリクト、2-7 クレーム、 2-8 その他
医療の質	3-1 個人情報保護、3-2 コンプライアンス、3-3 感染対策、 3-4 栄養管理・ＮＳＴ、3-5 褥瘡対策、3-6 チーム医療、 3-7 臨床指標、3-8 口腔ケア、3-9 その他
医療情報	4-1 電子カルテ・ＩＴ関連、4-2 診療録管理、4-3 広報活動、 4-4 その他
地域医療連携	5-1 地域連携ネットワークシステム、 5-2 地域連携クリティカルパス、5-3 患者支援・退院支援、 5-4 在宅医療、5-5 救急医療、5-6 リハビリ、5-7 その他
教育	6-1 人材育成、6-2 コーチング、6-3 認定看護師、 6-4 看護教育・教育、6-5 その他
病院運営	7-1 診療報酬、7-2 病歴管理、7-3 物流管理、 7-4 病院マネジメント手法、7-5ＤＰＣ、7-6 コスト管理、 7-7 組織運営、7-8 モチベーション向上、7-9 その他
患者サービス	8-1ＣＳ向上、8-2 患者教育、8-3 その他
看護業務	9-1 看護運営、9-2 看護必要度、9-3 チーム医療、9-4 その他
検診業務	10-1 生活習慣病、10-2 その他
その他	11-1 その他

参加者の皆さまへお願い

◆座長の皆さまへお願い

受付は９時より開始いたします。控室をご用意しておりますので、学会スタッフよりご案内いたします。また、担当セッション開始時間の 15 分前には次座長席またはその周辺の席にお着きください。

演題発表後のフロアからの質問につきましては、あらかじめ座長より「質問のある方は挙手の上、質問をお願いします。なお質問においては、まず所属と氏名を名乗ってからお願いします。」のアナウンスを行い、質疑を開始してください。

また、日本医療マネジメント学会愛媛県支部では、お互いの呼称を「〇〇先生」とせず、文書では「〇〇様」、呼ぶ時には「〇〇さん」とさせていただきます。特別講演の演者のみ「〇〇先生」と呼びます。

◆演者の皆さまへのお願い

受付は９時より開始いたします。控室をご用意しておりますので、学会スタッフよりご案内いたします。また、担当セッション開始時間の５分前には控室にお集まりください。学会スタッフが会場までご案内いたします。

会場で使用するパソコンは Windows のみです。アプリケーションは PowerPoint です。音声は利用できません。担当セッションの 30 分前までに受付でデータの動作確認を行ってください。

一般演題は、口演７分、質疑応答２分です。スライドの枚数に制限はありませんが、ご講演時間内に終了するように準備してください。また、質疑応答は座長の指示に従ってください。

昼食は２階イベントホールでお取りください。

第 13 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会会長
社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院 院長　松野　剛

開会挨拶（9：30～9：35）

第 13 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会会長
松野　剛（社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院 院長）

一般演題（１）（９：40～10：40）

座長　：井口　利仁（社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院 副院長）

演題①　：感染管理認定看護師が発熱外来の問診を実施した効果と課題
西村　小百合（にしむら　さゆり）
社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院

演題②　：〈事例報告〉新型コロナウイルス感染症５類移行時の感染管理チームの取り組み
―次の新興・再興感染症発生に備える―
高瀬　正和（たかせ　まさかず）
愛媛大学医学部附属病院　感染制御部

演題③　：新型コロナ感染症患者受け入れに効を奏した日ごろからの取り組み
竹田　喜久恵（たけだ　きくえ）
医療法人社団樹人会　北条病院

演題④　：職員に対するCOVID-19感染症の家庭内感染防止対策の強化
道休　由佳里（どうきゅう　ゆかり）
社会医療法人北斗会　大洲中央病院

演題⑤　：褥瘡予防対策
中村　愛果（なかむらあいか）
社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院　看護部

演題⑥　：当院の褥瘡発生患者の現状と課題－褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定患者を含めて
磐淺　万紀子（いわさ　まきこ）
社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院　看護部

※1題発表７分、質疑応答２分、時間厳守でお願いします。

演題①　　：感染管理認定看護師が発熱外来の問診を実施した効果と課題
演者名　　：西村　小百合（にしむら　さゆり）
所属　　：社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院
共同演者名：

演題内容
新型コロナウイルス感染症流行に伴い、愛媛県では 2020 年 11 月 16 日から発熱患者は最寄りの診療・検査医療機関に電話予約の上で受診する方針となった。当院では感染管理認定看護師が午前中を中心に発熱・上気道症状患者の問診を行った。感染管理認定看護師が問診を行うことで、新型コロナウイルス感染症に対する不安の払拭・患者の状態に応じた診療を決定する一助となった。一方、新型コロナウイルス感染症クラスター発生時など対応が十分に出来ない・感染管理認定看護師が問診をすればいい、問診のことは聞けばいいという思いから、問診に対する意識の低下が課題となった。

カテゴリー ＝３‐３（医療の質：感染対策）

演題②　　：〈事例報告〉新型コロナウイルス感染症５類移行時の感染管理チームの取り組み
　　―次の新興・再興感染症発生に備える―
演者名　　：高瀬　正和（たかせ　まさかず）
所属　　：愛媛大学医学部附属病院　感染制御部
共同演者名：田内　久道、桝田　夏代、青野　晴考

演題内容
新型コロナウイルス感染症（以下 COVID-19）の５類感染症移行に伴い、厚生労働省から「学会等の感染対策ガイドラインに沿いつつ効率性も考慮した対応」を考慮するよう通知があった。A 病院では「効率性とは、エビデンスに沿った感染対策を行い、防護具着脱などの労力を最小にすること」であると解釈し、ガイドラインを基に標準予防策を重視した感染対策にマニュアルの内容を変更した。そして院内感染対策講習会で、感染対策を変更した経緯や防護具選択についての考え方を示し、職員が不安なく、安心・安全に COVID-19 の診療を行なえるよう取り組んだ。現在のところ、５類移行後に患者から職員に明らかに伝播した事例はない。また院内だけでなく、医師会等と連携し、地域の病院へ取り組み内容を情報発信した。今回の未曾有の COVID-19 パンデミックで得た様々な経験や取り組みを地域全体で情報共有し、次の新興・再興感染症発生時に活かしていく必要がある。

カテゴリー ＝３‐３（医療の質：感染対策）

演題③　　：新型コロナ感染症患者受け入れに効を奏した日ごろからの取り組み
演者名　　：竹田　喜久恵（たけだ　きくえ）
所属　　：医療法人社団樹人会　北条病院
共同演者名：小原　睦美、三好　麻希、戒田　文子、青野　剛久、髙石　義浩

演題内容
当院は、松山市の北部に位置する病床数 60 床の在宅療養支援病院である。新型コロナ感染症患者（以後患者）を病床単位で受け入れている。スムーズに受け入れができており、今回、患者受け入れに効を奏した２つの取り組みについて報告する。
まず、診療内外施策検討会である。2010 年から職種・役職にかかわらず、忌憚なく話し合える場として開催している。2019 年２月から「新型コロナウイルス院内対応」として発信を続けた。
次に、ホワイトボードカンファレンスは、タイムリーな病床管理のために毎日開催している。松山市保健所からの情報共有にこの場を活用した。
危機的な状況における組織運営には、①情報の共有と意思決定と徹底した周知、②職員ひとり一人の危機意識と当院の役割意識の醸成、③課題に対し話し合える体制が重要である。普段から継続的に行ってきた取組みが今回のミッションを確実に遂行するための仕組みとして十二分に機能したと考える。

カテゴリー ＝７‐７（病院運営：組織運営）

演題④　　：職員に対する COVID-19 感染症の家庭内感染防止対策の強化
演者名　　：道休　由佳里（どうきゅう　ゆかり）
所属　　：社会医療法人北斗会　大洲中央病院
共同演者名：

演題内容
COVID-19 感染症の流行が始まってから３年が経過した。当院では、2022 年５月に初めて職員の陽性者が確認され、その後 2023 年３月末までに 54 名が罹患した。職員への感染経路で最も多かったのは、同居家族からの感染で全体の 64.8%を占めており、家庭内における感染防止対策の重要性が示唆された。家庭内での COVID-19 感染防止対策は、病院とは異なり環境上密接する機会も多く、特に学童以下の子育て中の職員は分離が難しい状況であった。当初、自宅待機者には、愛媛県の「新型コロナウイルス感染症自宅療養のしおり」を配付していたが、自宅の環境等により「しおり通りにはいかない」との意見が聞かれ、職員の陽性者が散発的に続いていた。そこで、しおり活用上での問題点や工夫状況を調査し、実践した職員の意見が反映した具体策を院内感染防止対策セミナーで提示して、家庭内の感染防止対策の徹底を図った。その結果、同居家族が感染した際の職員への感染率は 30.7%に減少した。

カテゴリー ＝３‐３（医療の質：感染対策）

演題⑤　　：褥瘡予防対策
演者名　　：中村　愛果（なかむらあいか）
所属　　：社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院　看護部
共同演者名：武田　和剛

演題内容
HCU では重度の末梢循環不全や意識障害など褥瘡ハイリスク患者が多い。その原因を取り除き、褥瘡発生を防ぐことができれば看護の質の向上に繋がると考えた。
はじめに、HCU スタッフ全員に褥瘡意識のアンケートを実施、褥瘡の観察・仙骨部へのワセリンの予防塗布の必要性の周知、褥瘡観察の看護介入入力の周知徹底を行った。
結果として、活動期間中、HCU 内の褥瘡ハイリスク患者は計 29 名で、ワセリンの予防塗布が行えたのが 10 名、看護介入で褥瘡観察の入力が行えたのが 23 名である。
後期のアンケート結果から、ワセリンの予防塗布・褥瘡好発部位の観察の意識向上が見られた。
ワセリンの予防塗布が半数以下になったのは Dr への処方依頼が必要なことが上げられる。看護介入で褥瘡観察は看護師で入力が行えるため半数以上が実施し観察を行うことができたと考える。勉強会実施後は、発生は 1 件で過去 5 年間の平均年間発生件数 11.4 件と比べて発生件数を減少することができた。

カテゴリー ＝３‐５（医療の質：褥瘡対策）

演題⑥　　：当院の褥瘡発生患者の現状と課題ー褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定患者を含めて
演者名　　：磐淺　万紀子（いわさ　まきこ）
所属　　：社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院　看護部
共同演者名：

演題内容
当院の褥瘡発生率は 2021 年度 1.38%、2022 年度 0.93%である。この期間で褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定者の褥瘡発生率は 3.27%であり、非算定患者の発生率は 0.57%であった。褥瘡ハイリスク患者ケア加算は褥瘡発生予測に有用であるが一方で非算定患者も褥瘡発生をしていることが明らかになった。当院の褥瘡発生患者の特性と現状を明らかにし、褥瘡発生率低下に向けて今後の課題を明確にすることを目的にカルテ調査を行った。
対象は、過去 2 年間で褥瘡発生をした 134 名の院内新規褥瘡発生患者とした。
褥瘡発生患者は、低栄養状態で主な褥瘡ハイリスク要因は極度の皮膚の脆弱であった。入院から褥瘡発生までの平均日数は 30.5 日であり、急性期より慢性期での褥瘡発生が多かった。また、経管栄養や定期的な吸引処置、酸素投与が必要な患者、透析患者は褥瘡発生する患者が多かった。入院後も定期的に患者の状況を把握し、多職種と共有していくことが褥瘡低下につながると示唆された。

カテゴリー ＝３‐５（医療の質：褥瘡対策）

一般演題（2）（10：45～11：35）

座長　：崎田　智美（愛媛大学医学部附属病院 副院長兼看護部長）

演題⑦　：病床管理 DX ツール「Smart-BedControl」でより良い転棟を
上野　裕介（うえの　ゆうすけ）
社会医療法人石川記念会　ＨＩＴＯ病院

演題⑧　：一般病棟における入退院支援の課題
橋本　愛里（はしもと　あいり）
一般財団法人積善会　十全総合病院

演題⑨　：入退院支援のマニュアル作り
菊池　幸恵（きくち　ゆきえ）
市立八幡浜総合病院　地域医療連携室

演題⑩　：透析患者の在宅看取りを経験して ー在宅療養支援病院が踏み出す次の一歩ー
岡田　希世（おかだ　きよ）
医療法人社団樹人会　北条病院

演題⑪　：五方よしの健診センターを目指して
水野　慎太郎（みずの　しんたろう）
社会医療法人石川記念会　HITO 病院　総合健診センター

※1 題発表７分、質疑応答２分、時間厳守でお願いします。

演題⑦　　：病床管理 DX ツール「Smart-BedControl」でより良い転棟を
演者名　　：上野　裕介（うえの　ゆうすけ）
所属　　：社会医療法人石川記念会　ＨＩＴＯ病院
共同演者名：高橋　大樹

演題内容
【はじめに】当院はケアミックス病院であり、急性期病棟から地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟への転棟時期の良し悪しは経営面や施設基準に影響する。これまでは、入院→転棟（退院）の進捗管理をエクセルの管理表を用いていたが、作成の手間や情報の鮮度などに課題があった。
【取り組み】（株）シンカヘルスケアと病床管理 DX ツール「Smart-BedControl」を共同開発し、導入した。本ツールは患者ごとの入院料、必要度等の情報が自動更新され、経営的な「最適転棟日」も表示される。 退院支援に必要な情報は MSW が入力し、先の情報と一覧画面上で閲覧、絞り込み、並び変えなどができる。
【結論】本ツールにより従来の課題を解決した上、転棟患者を選定する病棟管理者の業務負担を軽減し、転棟による入院料差益も向上した。なお、退院支援に携わる病棟管理者、MSW へヒアリングを行い現場の声を吸い上げたことが本ツールのスムーズな導入に繋がったと考える。

カテゴリー ＝ 11 - 1（その他：その他）

演題⑧　　：一般病棟における入退院支援の課題
演者名　　：橋本　愛里（はしもと　あいり）
所属　　：一般財団法人積善会　十全総合病院
共同演者名：渡邊　知美、松尾　美保

演題内容
【はじめに　目的】当院では入退院支援に対する一般病棟看護師の意識は高まっているが退院に向けて支援が十分に行えていない現状がある。経験年数によって入退院支援に対する意識や関わりに差があるように感じたため意識調査を行い、問題点、課題を明らかにする。
【結果および考察】入退院支援の必要性を殆どの看護師が感じている。何が難しいかは経験年数によって有意差は無かった。多忙にて入退院支援が行えず、優先度が低くなっている。０～５年目の看護師は何をすればいいか分からないと答えており、知識・経験不足があると思われる。入退院支援を業務の一つとしてとらえられるよう意識づけとプライマリーを中心としてチームでのアプローチ、情報共有が必要である。当院の一般病棟看護師は０～５年目が多く、若手の育成が必要である。６年目以上の看護師が自分の経験を伝えたり、一緒に入退院支援を行い、ともに意識向上できるような環境作りが必要である。

カテゴリー ＝ ５ - ３（地域医療連携：患者支援・退院支援）

演題⑨　　：入退院支援のマニュアル作り
演者名　　：菊池　幸恵（きくち　ゆきえ）
所属　　：市立八幡浜総合病院　地域医療連携室
共同演者名：岡　君佳、清水　義貴

演題内容
当院の地域連携室はH14年10月、八幡浜圏域の中核病院として病診連携の強化、医能分担を推進することを目的に作られ、業務内容は多岐にわたる。院内外職員と相互に連携し、協働しながら職務にあたっている。職員構成は看護師１名・社会福祉士２名・事務職２名の５人体制である。看護師には異動があり、病棟や外来からの異動で諸制度や市内の施設・病院の役割など理解が不十分な点があり、異動後に相談業務や入退院支援業務に戸惑うことがある。今回、R2年４月１日～R3年３月31日までの地域連携室が受けた相談内容の分類検討を行い、地域連携室職員の経験の有無に関わらず相談支援・入退院支援ができるようマニュアル作成を行ったので報告する。

カテゴリー ＝ ５‐３（地域医療連携：患者支援・退院支援）

演題⑩　　：透析患者の在宅看取りを経験して ー在宅療養支援病院が踏み出す次の一歩ー
演者名　　：岡田　希世（おかだ　きよ）
所属　　：医療法人社団樹人会　北条病院
共同演者名：小原　睦美、浅田　真由美、竹田　喜久恵、戒田　文子、前田　明信、髙石　義浩

演題内容
医療の進歩や高齢化に伴い、透析患者の終末期医療への対策は喫緊の課題である。透析患者の終末期は透析へ通うことが困難となり入院となることが多い。そして自宅での看取りは透析の見合わせと密接に関連することから患者や家族が決断を下すハードルが高い。しかし透析患者もその家族も例にもれず「最後は自宅で過ごしたい・過ごさせたい」気持ちは同じである。
今回、透析室と在宅チームが連携し、在宅で最期を過ごすことができた症例を経験した。透析の見合わせから看取りまでの限られた時間で訪問診療へ移行する必要があったが、透析スタッフが患者の意向を確認する面談や終末期を迎える可能性の高い患者の抽出を定期的に行い、早期から自院の在宅チームが介入できたことが大きい。維持透析施設であり在宅療養支援病院である当院の強みを活かした院内連携を図り、重大な決断をした患者・家族の気持ちに寄り添った体制を整えていきたいと考える。

カテゴリー ＝５‐４（地域医療連携：在宅医療）

演題⑪　　：五方よしの健診センターを目指して
演者名　　：水野　慎太郎（みずの　しんたろう）
所属　　：社会医療法人石川記念会　HITO 病院　総合健診センター
共同演者名：宇田　育美、上田　侑太郎

演題内容
当健診センターでは市内の企業を中心に、各種健康診断を実施している。
昨年度は感染対策を講じつつ、サービス・生産性・経営面における向上を目的とした以下の取組を実践した。
【取組】
オプション検査のオンライン事前予約。PHR 活用と結果表送付までの日程短縮。特定保健指導の開始とオンラインによるフォロー体制の構築。
【結果・まとめ】
これらを中心とした具体的な取組の成果として、検査時間縮減による時間内終了と枠の拡大。結果送付期間の大幅な短縮とペーパレスの推進。特定保健指導では、自宅や職場から Zoom を用いて実施が可能となり、実施率が向上した。
検査枠の拡大による受診者、収益の増加、スタッフの超過時間においても減少が図れている。今後は、「二次受診率の分析・向上」「NOBORI のさらなる活用」が課題である。

カテゴリー ＝ 10 - 2（検診業務：その他）

日本医療マネジメント学会愛媛県支部総会（11：40～12：00）

◆愛媛県支部長挨拶
　櫃本 真聿 （日本医療マネジメント学会愛媛県支部長）

◆議事討議
　議　　長：櫃本 真聿 （日本医療マネジメント学会愛媛県支部長）
　進行事務局代表：古林 太加志 （十全総合病院 名誉院長）

◆第 12 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会 優秀演題賞並びに奨励賞表彰

◎最優秀演題賞

演題⑫ ：宇和島市在宅医療介護連携システム「みさいやネット」について
　　岩村　正裕（いわむら　まさひろ）
　　宇和島市高齢者福祉課地域包括支援センター

　　第 12 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会会長
　　梶原　伸介（市立宇和島病院事業管理者）

休憩・昼食（12：00～13：00）

特別講演（13：00～14：00）

座長　：　松野　剛（社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院 院長）
演題名：　医療 DX がもたらすパラダイムシフト～価値中心の医療を探る～

中尾 浩一 （なかお こういち）先生
社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院 院長

【学歴】
1985 年　　熊本大学医学部専門課程 卒業
1992 年　　熊本大学大学院 医学研究科 卒業（医学博士）

【職歴】
1985－86 年　熊本大学医学部附属病院循環器内科 研修医
1986 年　　熊本市立熊本市民病院内科 研修医
1986－87 年　宮崎県立延岡病院内科 研修医
1987－88 年　労働福祉事業団熊本労災病院循環器科 医員
1992－94 年　国立循環器病センター心臓血管内科 厚生技官 （医療職）
1994－95 年　熊本大学保健管理センター 文部教官（教育職）助手
1995－97 年　米国コロラド大学ボルダー校 分子細胞発生生物学部門 リサーチフェロー
1997－99 年　社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院 循環器内科 医員
2007－15 年　同 心臓血管センター循環器内科 部長
2012－17 年　同 副院長
2017 年 4 月　同 院長
現在に至る

【学会 役職等】
日本循環器学会（代議員、FJCS 会員）
日本心臓病学会 （代議員･FJCC 会員)日本冠疾患学会 （理事：FJCA 会員）
日本心血管インターベンション治療学会（インターベンション名誉専門医）日本集中治療医学会
日本クリニカルパス学会 （理事）医療の質・安全学会
日本医療・病院管理学会
地域病病連携推進機構 （理事）
熊本大学医学部医学科臨床教授（循環器内科学）2009 年－臨床研究適正評価教育機構（J-Clear）
評議員 2012 年－全国済生会循環器懇話会 代表世話人 2015 年－

【専門分野】　心血管インターベンション 循環器集中治療

神経障害性疼痛治療剤

薬価基準収載

タリージェ®錠 2.5mg・5mg
OD錠 10mg・15mg

OD錠 新発売

一般名：ミロガバリンベシル酸塩(Mirogabalin Besilate)

処方箋医薬品　注意—医師等の処方箋により使用すること

「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告・禁忌を含む注意事項等情報」等の詳細については、電子添文等をご参照ください。

製造販売元（文献請求先及び問い合わせ先を含む）

第一三共株式会社

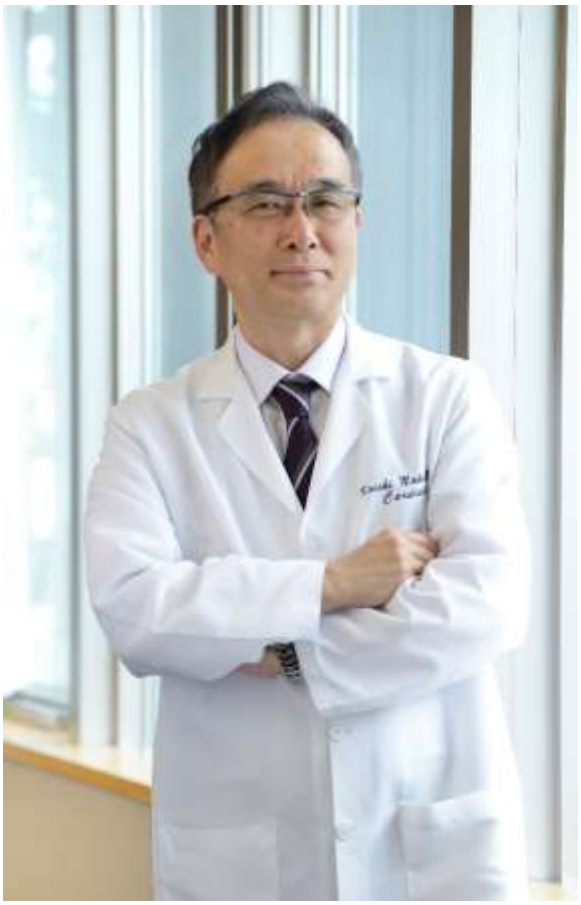
東京都中央区日本橋本町3-5-1

2023年5月作成

◆ 特別講演要旨

『医療 DX がもたらすパラダイムシフト～価値中心の医療を探る～』

社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院　院長
中尾 浩一先生



新型コロナウイルス感染症の拡大は、私たちの社会が（そのことを知りながら）長らく放置してきた問題を次々と浮き彫りにした。その最たるものがデジタル化の遅れであり、医療もまた例外ではない。
そもそも我が国の文化は、デジタル化と相性が悪い。デジタルの語源はラテン語で指を意味する「digitus」だが、指折り数えうる整数値で、コンピュータ科学では０と１である。つまるところデジタル化の真髄は、徹底的な数値化であり可視化だ。和を過剰に重んじ、必要な議論を避け、曖昧な空気の中でも「わかり合える」という幻想を抱き続けてきた我が国にとって、デジタル社会の実現には国民のマインドセット変更が必要だろう。
済生会熊本病院は従前より、データに基づく医療を経営の骨子としてきた。その実装のためには業務のモジュール化が必要であり、当院が取り組んできたクリニカル・パス、JCI ワークフロー、地域医療連携（アライアンス）はデジタル化に親和性が高い。病院内にせよ、地域にせよ、各々の役割を明確にし、それに伴った権限と責任を与え、与えられた役割を高いレベルで果たす個人や病院が評価されるべきだろう。役割分担を促し、しなやかに繋ぐのがデジタル技術であって、医療が所有から共有へ向かい、競争より協調を重んじることが社会の利得となる。
当院では 2024 年までの中期事業計画として、「デジタル化を基盤とした価値中心の医療」を掲げている。ビジョンに描くのは、デジタル技術の活用が、私たちが行うあらゆる仕事の、そして患者にとっての「価値」を高めていく姿だ。デジタル技術の裾野は広いが、データ分析技術、オンライン・リモート技術、プロセス自動化技術（RPA）、さらに人工知能（AI）などの活用で高価値医療の実現を目指している。本講演では当院のこれまでの取り組みの一端を紹介しつつ、これからの医療と働き方を考えてみたい。

一般演題（3）（14：05～14：55）

座長　：西崎　統（社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院 副院長）

演題⑫　：当院での早期栄養介入管理加算の取り組みについて～職種の境界線を越えて～
伊藤　優花（いとう　ゆうか）
社会医療法人石川記念会　HITO 病院

演題⑬　：大腿骨骨折　術前評価体制の構築
越智　裕美子（おち　ゆみこ）
社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院

演題⑭　：産後ケアパス７泊８日に見直して～お母さんと赤ちゃんのサポート～
千葉　美由紀（ちば　みゆき）
社会医療法人同心会　西条中央病院　産科ユニット

演題⑮　：遠隔支援による食事介入 -施設で「食べる」を継続していく取り組み-
白石　和毅（しらいし　かずき）
医療法人健康会　介護老人保健施設アイリス

演題⑯　：医療サービス向上に向けた取り組み～院内認定制度　抗がん剤 IV ナース育成～
阿部　裕美（あべ　ひろみ）
社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院

※1 題発表７分、質疑応答２分、時間厳守でお願いします。

演題⑫　　：当院での早期栄養介入管理加算の取り組みについて～職種の境界線を越えて～
演者名　　：伊藤　優花（いとう　ゆうか）
所属　　：社会医療法人石川記念会　HITO 病院
共同演者名：三木　千春、西川　沙絵、田實　美月、苅田　瑞希、吉岡　勇気、岡本　薫学、
　　長野　ひとみ

演題内容
患者の栄養状態の改善や早期退院に向けて、R4 年４月より早期栄養介入管理加算の算定を開始した。早期栄養介入と在院日数の関連について、HCU、SCU 入院患者（死亡退院除く）を対象に、早期栄養介入管理加算の算定群と非算定群、入室後 48 時間以内の経腸栄養を開始群と非開始群における、急性期病棟の在院日数と DPCⅡ期間との日数差を集計を行った。加算算定群と経腸栄養開始群において、在院日数、DPCⅡ期間の日数差ともに短いという結果が得られたため、当院での早期栄養介入加算の取り組みの現状とともに報告を行う。

カテゴリー ＝３‐４（医療の質：栄養管理・NST）

演題⑬　　：大腿骨骨折　術前評価体制の構築
演者名　　：越智　裕美子（おち　ゆみこ）
所属　　：社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院
共同演者名：児島　有希子　大村　真奈美　太田　千恵美　高杉　茂樹

演題内容
今治地域では、急性期病院２施設、回復期病院５施設で連携し大腿骨地域連携パスを使用しリハビリ連携を行っている。当院では年間約 100 症例の大腿骨骨折に対し手術を行っている。人工骨頭挿入術２事例で、術中アクシデントが発生した。安全な手術を行う術前の評価内容の見直し、院内での緊急時体制の構築を行った。

カテゴリー ＝２‐２（医療安全：安全管理・安全対策）

演題⑭　　：産後ケアパス７泊８日に見直して～お母さんと赤ちゃんのサポート～
演者名　　：千葉　美由紀（ちば　みゆき）
所属　　：社会医療法人同心会　西条中央病院　産科ユニット
共同演者名：

演題内容
当院は令和２年 10 月より、西条市産後ケア事業指定医療機関となり産後ケアを実施しています。産後ケアは、心身の休養や育児不安の解消の為、産後１年未満の母子に対し行われます。日帰りＡ型・日帰りＢ型、宿泊型・訪問型があり、期間をとおし７回利用することができます。助産師を中心に、保育士・コメディカルの協力を得て、チームでケアを実施している現状です。
令和３年までは、「日帰りパス」「宿泊型１泊２日」の２種類のパスを使用し宿泊数が増えたこともあり、「7 泊８日パス」を作成しました。チームで意見交換をおこないパス作成し、チーム全体の「産後ケア」に対する取り組みが前向きになり、看護師指示を充実させることで、チーム全体での統一したケアをおこなえ、好評を得ています。また、子育て包括支援センターへの連絡・報告書も今回パス作成したことにより一部のスタッフのみでなくチーム全体で地域連携が緊密になりました。

カテゴリー ＝１‐１（クリティカルパス：作製・導入）

演題⑮　　：遠隔支援による食事介入 -施設で「食べる」を継続していく取り組み-
演者名　　：白石　和毅（しらいし　かずき）
所属　　：医療法人健康会　介護老人保健施設アイリス
共同演者名：

演題内容
本施設では様々な要因で摂食・嚥下機能が低下している高齢者が入所している。そこで、安全な食生活を継続できるよう同グループの ST の協力を得てスマートグラスによる遠隔嚥下支援を受けながら食事介入を行った。
方法として、対象者の情報やカンファレンスで挙がった疑問点を業務用チャットにて ST と共有しておく。遠隔支援で得られた情報をカンファレンスで多職種と共有し食事介入を実践する。また、１週間後にＳＴに業務用チャットで経過報告を行った。その結果、遠隔支援を 23 回実施し、誤嚥性肺炎の入院退所は０％であった。
摂食・嚥下障害には多くのリスクが潜んでおり、経口摂取に伴うリスクを判断する事が大切である。今回、遠隔支援による食事介入で個々に応じた対応を行う事で安全な食生活へ繋がる可能性を感じた。

カテゴリー ＝ ３‐６（医療の質：チーム医療）

演題名⑯　：医療サービス向上に向けた取り組み～院内認定制度　抗がん剤Ⅳナース育成～
演者名　　：阿部　裕美（あべ　ひろみ）
所属　　：社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院
共同演者名：野口　正、井口　利仁

演題内容
当院はがん診療連携拠点病院であり、化学療法件数は外来 2500 件/年、入院 450 件/年、実施している。化学療法の有害事象として血管外漏出がある。重篤な症状として壊死や潰瘍形成などがあり、治療の継続困難や精神的な苦痛を伴う。末梢静脈からの投与の場合、看護師が穿針し医師が逆血確認を行っている。しかし逆血確認を行う医師の業務負担や患者の待ち時間の延長が問題となっていた。
2018 年から化学療法委員会が「院内認定制度　抗がん剤Ⅳナース（以下、Ⅳナース）」の育成に取り組んだ。対象は当院のクリニカルラダー2 以上で所属師長の推薦がある看護師を対象とした。がん治療認定医、がん薬物療法認定薬剤師、がん化学療法看護認定看護師による講義と筆記試験、穿刺技術を確認した。認定を受けたⅣナースが穿刺した場合は医師の逆血確認を不要とすることで医師の業務軽減と患者の待ち時間の短縮となり、Ⅳナースの活動が医療サービスの向上に繋がった。

カテゴリー ＝６‐４（教育：看護教育・教育）

一般演題（4）（15：00～16：00）

座長　：青陽　光（社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院 副看護部長）

演題⑰　：価値ある診療記録を目指して
　　續木　勝太（つづき　しょうた）
　　社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院

演題⑱　：画像診断レポートの既読管理を改善するための当院における取り組み
　　安原　美文（やすはら　よしふみ）
　　独立行政法人国立病院機構　愛媛医療センター　臨床研究部

演題⑲　：Ａ病棟における気道管理に関する安全教育
　　橋本　君代（はしもと　きみよ）
　　愛媛大学医学部附属病院

演題⑳　：当院での食物アレルギー対応への取り組み
　　瀧本　育子（たきもと　いくこ）
　　社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院

演題㉑　：一般病棟におけるせん妄発症時の看護ケアの実態
　　岩崎　汀（いわさき　なぎさ）
　　一般財団法人積善会　十全総合病院

演題㉒　：多職種を巻き込んだ効果的なせん妄予防の取り組み
　　上原　雅代（うえはら　まさよ）
　　愛媛大学医学部附属病院　泌尿器科・歯科口腔外科

※1 題発表７分、質疑応答２分、時間厳守でお願いします。

演題⑰　　：価値ある診療記録を目指して
演者名　　：續木　勝太（つづき　しょうた）
所属　　：社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院
共同演者名：山内　久美子、児島　有希子、菅　紀明

演題内容
【はじめに】適切な診療記録の作成は日常診療、病院経営、医学研究、医療安全等の観点から、多数の価値を創出する。一方当院では年間 350 件（令和 3 年度）を超す記録不備が発生しており、改善活動が急務であった。
【目的】価値ある診療記録を作成し院内外のニーズに対応する。
【方法】診療情報管理士や専従リスクマネジャーにて日々点検を実施。改善事項については医局会や師長会等へ報告。また、研修動画を作成し院内ネットで全体共有を行った。その他、システムエンジニアと共同し、ヒューマンエラーを防ぐシステム仕様変更を継続した。
【結果】令和 4 年度の不備件数は 149 件となり前年比 60%減となった。
【考察】多職種への意識付けが重要であったが、”なぜしなければならないのか”、を伝える必要性を強く感じた。これらは事務部門だけでなく、多職種の協力のもと達成できた結果であり、今後も継続した取り組みが必要と考える。

カテゴリー ＝４‐２（医療情報：診療録管理）

演題⑱　　：画像診断レポートの既読管理を改善するための当院における取り組み
演者名　　：安原　美文（やすはら　よしふみ）
所属　　：独立行政法人国立病院機構　愛媛医療センター　臨床研究部
共同演者名：

演題内容
【背景】当院では画像診断レポートの既読管理に既存の医療用画像管理システムを利用している。これを用いて既読管理を開始した当初に報告された既読率は低かったため、医師を対象としたアンケート調査を行い、問題点を昨年の本学会で発表した。
【目的】当院の既読管理システムの改善、既読率の定期的な報告等の情報提供による既読率の変化を報告する。
【方法】画像診断レポートの一覧へのリンクを電子カルテに作成し、依頼医毎の一覧を容易に表示できるようにシステムの改善を行った。また、毎月の既読率をメール、会合等で報告し、既読率の向上に関心を持ってもらうための情報提供を行った。
【結果】システムの改善、情報提供により既読率が上昇傾向となった。また、非常勤医が依頼医である場合の対処法等、解決すべき問題も絞られてきた。
【結論】今回の取り組みにより既読率が向上したが、問題も残っている。

カテゴリー ＝２‐２（医療安全：安全管理・安全対策）

演題⑲　　：A 病棟における気道管理に関する安全教育
演者名　　：橋本　君代（はしもと　きみよ）
所属　　：愛媛大学医学部附属病院
共同演者名：稲多　早苗

演題内容
A 病棟においてカニューレ閉塞・抜去に関する 3b インシデントは、2021 年度 3 件発生したため、2022 年度に窒息時のフローチャートを改訂、「気道緊急学習会」を実施した。その結果、2022 年度のカニューレ閉塞・抜去に関する 3b インシデントは 0 件となった。しかし、今年度、気道閉塞に伴う Rapid Response System（以下 RRS）要請を行った事例が発生した。
そこで、再度、気道管理に関する教育内容を見直す必要があると考え、急変に対応できる看護師の育成を目指し、教育内容について検討した。2023 年度の RRS 要請での看護の問題点を抽出し、それを基に場面を想定した学習会やシミュレーション研修、基準の見直し等に取り組んだ。
気道閉塞のリスクの高い病棟において、急変時に対応できる看護師の育成に向けて、場面を想定した学習会・シミュレーション研修を実施したので報告する。

カテゴリー ＝２‐５（医療安全：安全教育・研修）

演題⑳　　：当院での食物アレルギー対応への取り組み
演者名　　：瀧本　育子（たきもと　いくこ）
所属　　：社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院
共同演者名：金子　由季、長野　可奈子、菅　紀明、井出　知美、越智　裕美子、児島　有希子

演題内容
入院する際、食物アレルギーがある患者へ食事を提供する上で、食物アレルギーの食品を除去した食事提供が必須である。そのため入院前より食事開始時までに、正確に食物アレルギーの食品を聞き取り、情報を共有し、食事へ反映させることが必要である。多職種が関わる中で、統一した基準、運用が必要であり、抜けなく対応できるよう、2022 年度より食物アレルギーの聞き取り方法、食物アレルギー基準、電子カルテ入力、伝達方法、運用方法の周知、各職種の役割の明確化を、看護部、システム部、栄養部で検討を行い、システム構築をおこなったため報告する。

カテゴリー ＝２‐２（医療安全：安全管理・安全対策）、３‐４（医療の質：栄養管理・NST）

演題㉑　　：一般病棟におけるせん妄発症時の看護ケアの実態
演者名　　：岩崎　汀（いわさき　なぎさ）
所属　　：一般財団法人積善会　十全総合病院
共同演者名：高橋　美由紀、福永　剛士

演題内容
【はじめに】A 病院の、入院患者の約 79%が 65 歳以上の高齢者である。高齢患者のリスクとしてせん妄があり、A 病院では入院時にせん妄ハイリスク評価をし、発症要因を理解した上で看護を行っている。しかし看護師のせん妄に対する意識や対策が不十分だと感じ、より質の高い看護の提供を目指す為に、せん妄に対する看護師の認識や看護の実態を明らかにする。
【目的】A 病院一般病棟におけるせん妄患者に対する看護師の意識と看護ケアの実態を把握し看護の看護ケアの質向上につなげる。
【方法】一般病棟に所属している看護師にアンケートを用いて調査し結果内容を分析した。
【結果】98%の看護師がせん妄を発症した高齢者の対応をしていた。低活動型せん妄は過活動型せん妄に比べて認識が低かった。調査から薬剤の内服や身体拘束を行うことが多く、せん妄を予測した行動やせん妄発症後には発症の原因について問いながら対応していくことが今後の課題と考える。

カテゴリー ＝６‐５（教育：その他）

演題㉒　　：多職種を巻き込んだ効果的なせん妄予防の取り組み
演者名　　：上原　雅代（うえはら　まさよ）
所属　　：愛媛大学医学部附属病院　泌尿器科・歯科口腔外科
共同演者名：福本　哲也、合田　啓之、村上　聡、曽根　司央子

演題内容
入院患者の高齢化が進む中、A 病棟では 60 歳以上の患者が全体の 7 割を占め、その中でも 70 歳以上の割合が多い。在院日数短縮に伴い、短期間に安全で質の高い看護を実践しなければならない。このような状況下で発生するインシデントの中には、認知機能の低下、見当識障害、不穏などのキーワードが多くみられる。せん妄状態にある患者の対応には、複数の人員と時間を要し、何よりも患者の苦痛が伴い、安全確保が困難になる。
そこで、A 病棟でせん妄スクリーニング、アセスメント、せん妄予防の看護について老人看護専門看護師による学習会を開催し、医師、薬剤師にも協力依頼し、せん妄予防の看護に取り組んだ。その結果、夜間の業務負担軽減、せん妄に関連した転倒・転落やチューブトラブルのインシデント減少や身体拘束件数の減少に繋がった。その取り組みについて、管理者の視点から報告する。

カテゴリー ＝９‐４（看護業務：その他）

一般演題（5）（16：05～16：55）

座長　：宮池　次郎（社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院 副院長）

演題㉓　：中途採用看護師を対象とした職務継続に至る要因と勤続年数との関連性
下元　実桜（しももと　みお）
社会福祉法人恩賜財団済生会松山病院　看護師

演題㉔　：深夜勤務帯の定時退勤を目指して
菊池　裕子（きくち　ひろこ）
市立大洲病院

演題㉕　：持参薬報告、処方切り替え時の薬剤師による介入の取り組み
灘部　晴美（なだべ　はるみ）
社会医療法人北斗会　大洲中央病院　薬剤科

演題㉖　：若手理学療法士の心理的安全性と働く意欲およびストレスとの関連について
石崎　崇天（いしざき　たかひろ）
愛媛県立今治病院　リハビリテーション部

演題㉗　：未来は自分たちの手で作る　ー四画面思考を用いてー
三好　麻希（みよし　まき）
医療法人社団樹人会　北条病院

※1 題発表７分、質疑応答２分、時間厳守でお願いします。

演題㉓　　：中途採用看護師を対象とした職務継続に至る要因と勤続年数との関連性
演者名　　：下元　実桜（しももと　みお）
所属　　：社会福祉法人恩賜財団済生会松山病院　看護師
共同演者名：

演題内容
【背景】看護業界における人材不足と離職が深刻化しており、B 病棟でも中途採用看護師が半数以上を占めている。そこで職場に慣れるまでの①;入職後に感じた困難②;職務継続の要因と勤続年数との関連性を調べ、今後の課題を考察した。【方法】先行研究を参考に無記名式質問調査法を配布し、回収をもって同意取得とした。【結果】①;に対しては、業務内容や看護マニュアルの不備による戸惑いを強く感じていた。②に対しては、思いを共有できる仲間の存在がいることで職務継続ができていることがわかった。また職務継続に至る要因と勤続年数との関連はなかった。【考察】①;中途採用看護師が新しい職場と不慣れな環境で業務を遂行するためには、看護マニュアルの整備を含めた業務改善が必要である。②同じ思いを共有できる仲間を作る機会を設け、職務継続に繋げたいと考える。

カテゴリー ＝９‐４（看護業務：その他）

演題㉔　　：深夜勤務帯の定時退勤を目指して
演者名　　：菊池　裕子（きくち　ひろこ）
所属　　：市立大洲病院
共同演者名：井上　和江、上田　賀寿美、向居　福見

演題内容
Ａ病院の地域包括ケア病棟は、令和２年度に時間外勤務の削減やワークライフバランスの充実を目的として２交替制勤務を導入した。導入にあたり業務内容の見直しや調整を行ったが、特定のスタッフに時間外勤務が発生していた。入院患者数や日常生活支援の程度・医療処置の有無や内容により一概には言えないが、16 時間勤務の中で業務整理や時間管理を行うことで定時退勤に繋がるのではないかと考えた。まずアンケート調査でスタッフの時間外勤務に対する意識調査を行った。次に２交替制勤務時の業務量調査で業務実態を把握し分析をした。その結果を元にスタッフと共に深夜勤務定時退勤のための改善策として、①定時の朝礼開始、②早出勤務者や看護補助者に業務の移譲、③申し送り後は別室での記録を実践したことで深夜勤務帯の時間外短縮に繋がったので報告する。

カテゴリー ＝ ９‐４（看護業務：その他）

演題㉕　　：持参薬報告、処方切り替え時の薬剤師による介入の取り組み
演者名　　：灘部　晴美（なだべ　はるみ）
所属　　：社会医療法人北斗会　大洲中央病院　薬剤科
共同演者名：

演題内容
高齢化と医療の多様化に伴い、患者は多くの病院にかかるようになっている。それに伴い、持参薬はポリファーマシーになっている事も多い。また、スペシャリティーと言われる専門的な薬剤を使用されている事もあり、薬剤の確認は複雑になっている。当院では、以前は患者の持参薬報告を薬剤師が電子カルテ内に入力し、その後医師が報告を元に切り替え処方を入力していたが、入力に手間がかかり、切り替え時のミスや当院未採用の薬剤対応がスムーズでない等も含め、医師より処方入力について改善の声があがった。そこで、当院独自の方法で持参薬切り替え処方のサポートを開始し、手順に改善を加えながら現在の形に至っている。今回、現在の持参薬対応の流れについて医師にアンケートを実施し評価頂いた。結果はおおよその医師より業務負担軽減になっているとの返答を頂き、改善点や今後の方向性等も検討することができた。この取り組みについて報告する。

カテゴリー ＝ ７ - ９（病院運営：その他）

演題㉖　　：若手理学療法士の心理的安全性と働く意欲およびストレスとの関連について
演者名　　：石崎　崇天（いしざき　たかひろ）
所属　　：愛媛県立今治病院　リハビリテーション部
共同演者名：吉岡　聖真、西上　智彦、田中　聡、長谷川　正哉

演題内容
臨床経験５年以下の 114 人の若手理学療法士を対象に、心理的安全性と働く意欲、ストレスとの関係についてアンケート調査を実施した。統計解析については、相関分析およびクラスター分析を実施した。相関分析の結果、心理的安全性と働く意欲（$r=0.43, p<0.05$）に正の相関、心理的安全性とストレス（$r=0.45, p<0.05$）に負の相関を認め、他職種を対象とした先行研究と一致する傾向が見られた。
また、クラスター分析では、心理的安全性と働く意欲の点数の高低から、若手理学療法士は４つのグループに分類された。このうち、心理的安全性と働く意欲がともに低いグループでは、ストレス点数の著明な増加を認めたが、心理的安全性または働く意欲のどちらか一方のみが高いグループの場合、ストレス点数の増加は認めなかった。このことから、心理的安全性と働く意欲がともに低下することでストレスが顕在化することが示唆され、これらを向上させる職場環境の構築が重要と考えられた。

カテゴリー ＝７ - ８（病院運営：モチベーション向上）

演題㉖　　：未来は自分たちの手で作る　ー四画面思考を用いてー
演者名　　：三好　麻希（みよし　まき）
所属　　：医療法人社団樹人会　北条病院
共同演者名：髙石　義浩

演題内容
部署としての目標や活動計画を持たなかった当科は、職能団体主催研修会に参加した際、認識の甘さに気づいた。そこで、部署内で、様々な手法を取り入れたグループワークや SWOT 分析等を積み重ね、自分たちの手で目標を決定した。その目標を実現するための手段として、近藤修司氏が考案した四画面思考を取り入れ、なりたい姿や実践する姿を明確にし、実践に移した。その結果、個々での取り組みの活性化、目標達成のためのプロジェクトチーム立ち上げとその取り組み等により、施設内で様々な成果を挙げることができた。新病棟完成や当院主催による地域施設参加のシンポジウム開催、新型コロナウイルス感染症５類移行等を受け、スタッフから四画面思考見直しの要望が上がり、今回、大幅な見直しを行った。結果、視野が広がり、新たに院外へ向けての取り組みを増やす等、自分たちの進む道を明確にすることができた。これらの活動と成果について報告する。

カテゴリー ＝７‐７（病院運営：組織運営）

閉会の挨拶（16：55～17：00）

第 13 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会会長
松野　剛（社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院 院長）

第 13 回 日本医療マネジメント学会愛媛県支部　総会資料

日本医療マネジメント学会愛媛県支部　会則

（名称）
第１条　本支部は日本医療マネジメント学会愛媛県支部と称する。
第２条　本支部の事務局は財団法人積善会十全総合病院に置く。事務局は会計を兼任する。
（目的）
第３条　本支部は日本医療マネジメント学会の地方支部として、医療マネジメントに関する学術、研究の交流をはかり、医療の進歩に資することを目的とする。
（事業）
第４条　本支部は前条の目的を達成するために学術集会、研究発表会ならびに講演会の開催を行う。（会員の資格）
第５条　本支部は、愛媛県に在住する日本医療マネジメント学会会員を以て構成する。
（学術集会）
第６条　本支部は年１回以上学術集会を開催する。学術集会のうち主たるものを支部学術集会と呼ぶ。
第７条　支部学術集会の演者は招待講演者を除き、必ず、日本医療マネジメント学会の会員であることとする。
（入会・退会の手続き）
第８条　本支部への入会は日本医療マネジメント学会に入会手続きを取ることにより行う。日本医療マネジメント学会を退会した場合には、本支部を退会したものとする。
（役員）
第９条　本支部に次の役員を置く。

支部長	１名
副支部長	１名
幹事	若干名
監事	２名
学術集会会長	１名
次期学術集会会長	１名

（役員の任期）
第 10 条 役員の任期は 2 年とする。ただし再任は妨げない。役員に欠員を生じた場合、支部長が愛媛県在住の日本医療マネジメント学会会員の中より補欠の役員を選任する。補欠の役員の任期は前任者の残任期間とする。
（役員の委任、選出）
第 11 条 支部長は幹事の互選により役員会で選出し、総会で決定する。
第 12 条 副支部長および監事は支部長が幹事の中から指名する。

第 13 条 支部長は愛媛県在住の日本医療マネジメント学会会員の中から、役員会の議を経て若干名の幹事を追加指名することができる。

第 14 条 学術集会会長、次期学術集会会長は支部学術集会に際して行われる役員会で役員の中より選出する。

（役員の役割）

第 15 条 支部長は本支部を代表し会務を総括する。また、支部長は年 1 回以上支部総会を招集し、支部総会の議長を務める。また、支部総会において本支部の活動報告及び活動方針報告を行う。

第 16 条 副支部長は支部長を補佐し、支部長が事故あるときはその職務を代行する。

第 17 条 監事は本支部の会務、会計および財産を管理する。監事は支部総会において本支部の監査報告を行う。

第 18 条 学術集会会長は本支部の今期支部学術集会を主催する。次期学術集会会長は次回支部学術集会を主催する。

（役員会）

第 19 条 役員会は支部長、副支部長、幹事、監事、学術集会会長、次期学術集会会長を以て構成し、支部の活動を推進し、支部学術集会、研究発表会ならびに講演会などの集会を企画する。

第 20 条 支部学術集会当日には役員会を行う。また役員会は必要に応じて随時開催する。

（運営費）

第 21 条 本支部の運営のための費用は、支部学術集会の参加費および諸団体からの寄付金、補助金をもってこれに充てる。支部学術集会の参加費は別に定める。

第 22 条 支部学術集会の資料代は別途請求できることとする。

（会計年度）

第 23 条 本支部の会計年度は毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日をもって終わる。

（決算及び監査）

第 24 条 本支部の事務局、会計は毎年 4 月 30 日までに決算し、監事の監査を受けなければならない。また事務局はその会計結果を支部総会で報告しなければならない。

（会則の変更）

第 25 条 本支部の会則の変更は役員会で行い、支部総会に報告する。

（その他）

第 26 条 この会則に定めるものの他、本支部運営に必要な事項は役員会の議を経て、支部長、事務局が別に細則として定める。

第 27 条 会員の中から個人情報管理担当を選任し、本支部の会員情報を管理する。

（附則） この会則は平成 26 年 11 月 9 日より施行する。

日本医療マネジメント学会愛媛県支部　会告

会告１　支部会員お互いの呼称
部会ではお互いの呼称として「〇〇先生」は使用しない。
文書では「〇〇様」、呼ぶ時は「〇〇さん」でお願いします。
なお、「〇〇先生」を使用した場合の罰則規定はありません。
（2010/05/22）

会告２　支部学術集会発表者の入会義務
支部学術集会発表者は学会会員に限られます。
未入会の学術集会発表者の皆様、入会手続きをお願いします。
なお、学術集会参加については学会会員はもちろんのこと、学会会員以外の方もＯＫです。学術集会には大勢の皆様のご参加お願いします。
（2010/11/06）

会告３　第１回支部学術集会参加者の事前登録
支部学術集会参加者の事前登録はありません。
当日参加よろしくお願いします。参加費は 1,000 円です。
（2010/11/21）

会告４　支部学術集会参加費
第 2 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会より、参加費について、学会非会員は 1,000 円、学会会員は 500 円とします。（なお愛媛県支部役員は 1,000 円です。）
（2011/11/06）

日本医療マネジメント学会愛媛県支部の歩み

【年月日】	【開催会名】
2010/05/22（土）	第０回日本マネジメント学会愛媛県支部役員会（設立準備会）
2010/11/21（日）	第１回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2011/11/06（日）	第２回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2012/11/10（土）	第３回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2013/11/17（日）	第４回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2014/11/09（日）	第５回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2015/11/15（日）	第６回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2016/11/23（水）	第７回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2018/ 1/ 20（土）	第８回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2018/11/23（金）	第９回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2019/11/03（日）	第 10 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2021/09/25（土）	第１１回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2022/10/01（土）	第 12 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2023/09/30（土）	第 13 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会

日本医療マネジメント学会愛媛県支部役員名簿(2023 年 9 月 30 日現在)

役員名	氏名	所属病院役職
支部長	櫃本　真聿	四国医療産業研究所所長
副支部長	古林　太加志	一般財団法人積善会十全総合病院名誉院長
幹事	青儀　健二郎	四国がんセンター臨床研究推進部長
幹事	東　良子	済生会松山病院看護部長
幹事	阿部　聖裕	愛媛医療センター院長
幹事	石川　賀代	ＨＩＴＯ病院理事長
幹事	石川　美保	公立学校共済組合四国中央病院看護部長
幹事	一井　美哉子	
幹事	伊藤　千鶴	公益社団法人愛媛県看護協会
幹事	井上　貴博	有限会社アポトライ代表取締役
幹事	今村　高暢	愛媛生協病院院長
幹事	大久保　啓二	大洲中央病院院長
幹事	越智　淳三	西条市立周桑病院副院長
幹事	梶原　伸介	市立宇和島病院事業管理者
幹事	北川　哲也	公立学校共済組合四国中央病院院長
幹事	木戸　保秀	松山リハビリテーション病院院長
幹事	児島　二美子	松山赤十字病院副院長兼看護部長
幹事	﨑田　智美	愛媛大学医学部附属病院看護部長
幹事	鈴木　美佐	愛媛労災病院看護部長
幹事	高石　義浩	北条病院院長・理事長
新幹事	高橋　令子	愛媛労災病院看護部長
新幹事	竹田　喜久恵	北条病院看護部長
幹事	田渕　典子	HITO 病院副病院長
幹事	鶴岡　裕昭	愛媛十全医療学院附属病院病院長
幹事	中村　寿	十全総合病院院長
幹事	西尾　俊治	南高井病院院長
幹事	松下　愛子	愛媛医療センター看護部長
幹事	松野　剛	社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院院長
幹事	水田　史子	一般財団法人積善会十全総合病院看護部長
幹事	宮嶋　優里	済生会今治病院副院長兼看護部長
幹事	宮岡　弘明	社会福祉法人恩賜財団済生会松山病院院長
幹事	守屋　昭子	住友別子病院看護部長
監事	田中　敬二	南松山病院理事長
監事	岡部　健一	旭川荘南愛媛病院院長
個人情報管理担当		古林　太加志　一般財団法人積善会十全総合病院名誉院長
第 14 回学術集会会長		高石　義浩　北条病院院長
第 15 回学術集会会長		未定

第12回 日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会 収支決算書

（令和 5年 3月31日現在）

	細目	収入金額	支出金額	合計
収入	愛媛県支部会計より	476,190		
	預金利息	4		
	学術集会参加費　181名分	136,500		
	（500円×89名、1,000円×92名）			
	プログラム協賛広告料　4社分	80,000		
	（20,000円×4社）			
	学会本部より補助金	61,000		
支出	Webプログラム作成費		80,000	
	印刷代・郵送費・振込料		35,066	
	特別講演講師謝礼金		89,096	
	特別講演講師交通費&宿泊料		116,170	
	最優秀演題賞（図書カード）（@20,000円×1件）		20,000	
	奨励賞（図書カード）（@ 3,000円×4件）		12,000	
	愛媛県支部会計へ		401,362	
	合計	753,694	753,694	0

普通預金通帳
伊予銀行（銀行コード：0174）　新居浜支店（店番号：250）
普通預金（科目：1）　口座番号：4103249
口座名義：日本医療マネジメント学会　愛媛県支部　代表者 古林太加志

令和 5年 3月31日現在の残高は以上のとおり相違ありません。

代表：　古林太加志　㊞

監査報告

2022年度日本医療マネジメント学会愛媛県支部の収支について、会計帳簿、預金通帳および証拠書類により監査いたしましたところ、適正に処理されておりました。
以上、監査の結果を報告いたします。

日本医療マネジメント学会愛媛県支部長　櫃本　真聿殿

2023年　3　月30日　　監事　岡部　健一

(自筆) 岡部健一

2023年　4　月　8　日　　監事　田中　敬二

(自筆) 田中敬二

第13回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会予算

	細目	収入金額	支出金額	合計
収入	愛媛県支部会計より	¥401,362		
	預金利子	¥10		
	学術集会入場料	¥100,000		
	プログラム広告費	¥80,000		
	4社（A4サイズ2万円×4社）			
	医療マネジメント学会本部より補助金	¥87,000		
支出	プログラム作成費		¥80,000	
	演題募集書類郵送費		¥65,000	
	WEB会議委託費		¥125,000	
	事務費		¥18,372	
	特別講演講師旅費（2人分）		¥160,000	
	講師謝礼(40000円×2人分)		¥80,000	
	垂れ幕など		¥80,000	
	優秀賞（図書券）		¥60,000	
合計		¥668,372	¥668,372	¥0

第 12 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会優秀演題賞

日　　時　■　2022 年 10 月 01 日（土曜日）９：００～１７：００
会　　場　■　市立宇和島病院（WEB 開催）
〒798-8510　愛媛県宇和島市御殿町１番１号
TEL　0895-25-1111
学術集会会長　■　市立宇和島病院事業管理者　梶原　伸介

◎最優秀演題賞

演題⑫　　：宇和島市在宅医療介護連携システム「みさいやネット」について
演者名　　：岩村　正裕（いわむら　まさひろ）
所属　　：宇和島市高齢者福祉課地域包括支援センター
共同演者名：
【演題内容】
宇和島市では市内病院、診療所、薬局、訪問看護ステーション、居宅介護事業所、市消防本部、高齢者施設等をセキュリティの保たれたインターネット環境で結び、多職種連携による住民支援を行うためのツール「みさいやネット」の運用をしております。
この「みさいやネット」は市民の同意を得て、対象者の医療情報、介護情報について、連携を行う機関のみが共通の画面で閲覧及び入力が出来るものであり、業務多忙な専門職の情報共有および意思疎通、重層的な住民ケアを行うツールです。
みさいやネット導入にあたり、本市では２本の基本方針を定めました。
１．救急搬送時・災害時における情報参照のために。
２．チームによる濃密な医療介護が必要な患者・利用者のために。
本学術集会においては「地域との連携」事例として、タブレット端末を利用しての利用者家族と多職種のコミュニケーションの概要について発表いたします。

カテゴリー ＝５－１（地域医療連携：地域連携ネットワークシステム）

第 12 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会奨励賞

◎奨励賞　４演題

演題３　　：コロナ禍における患者との面会禁止におけるケアマネとの連携について
演者名　　：菊池　幸恵（きくち　ゆきえ）
所属　　：市立八幡浜総合病院
共同演者名：清水　美智子、清水　義貴

演題８　　：当院での透析予防指導の現状と課題
演者名　　：村上　比奈恵（むらかみ　ひなえ）
所属　　：社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院
共同演者名：瀧　知美、重松　裕子、上田　晃久

演題 17　　：フルタイム勤務看護師と短時間勤務看護師との協働意識
演者名　　：西川　優季子（にしかわ　ゆきこ）
所属　　：社会福祉法人恩賜財団済生会松山病院
共同演者名：万徳　真奈美

演題 25　　：人工呼吸器管理中の患者に対する「処置・ケア後の確認チェックシート」の使用効果
演者名　　：髙岡　佐奈美（たかおか　さなみ）
所属　　：独立行政法人国立病院機構愛媛医療センター
共同演者名：渡邉　彰、楠　啓輔、早田　博行、大野　静香、久米　直樹、上岡　紗由美、
向井　紗帆、西原　麻菜、常陸　多佳子、吉田　八重美

特定非営利活動法人

日本医療マネジメント学会の入会案内と入会手続き

Japan Society for Health Care Management
http://jhm.umin.jp/

理事長挨拶

日本医療マネジメント学会が発足して26年目になります。本学会は医療の質の向上を求めてクリティカルパスをはじめ医療福祉の連携、安全管理等々、医療福祉の現場における各種の課題の研究、提案を行い、成果を上げて参りました。

本学会の主な活動には全国学術総会の開催があります。第25回日本医療マネジメント学会学術総会（会長　横浜メディカルグループ菊名記念病院理事長　山本　登　先生）は2023年6月23日、24日の2日間にわたりパシフィコ横浜での現地開催と一部オンデマンド配信で開催され、日本全国から多数参加の下に熱心な発表と討論が行われました。会員各位の御協力に感謝申し上げます。

さて、第26回日本医療マネジメント学会学術総会（会長　福岡赤十字病院院長　中房　祐司　先生）は2024年6月21日、22日の2日間にわたって“福岡国際会議場、福岡サンパレス”で開催されます。斬新かつ充実したすばらしいプログラムが企画されています。

多数の皆様の御参加をお待ち致します。

理事長　宮崎　久義

学　会　組　織

- ●理 事 会　会務を執行。
- ●評議員会　学会の重要事項を審議。
- ●総　　会　学会の最高議決機関で、学術総会時に開催。
- ●委 員 会　広報委員会：学会活動を学会会員及び学会非会員へ提供。学会ホームページの運用。
  企画委員会：学会主催のセミナーなどの企画・開催、学会発行の書籍の企画・出版。
  学会雑誌編集委員会：学会雑誌の企画、発行。
  保険・医療制度対策委員会：学会活動で明らかになった諸問題に対し、関連機関へ働きかけ。
  医療の質検討委員会：患者中心の医療の質の評価手法、医療の質の向上・維持手法について検討。
  クリティカルパス情報交換委員会：クリティカルパスの開発普及 及びクリティカルパス・ライブラリーを運営。
  電子化委員会：電子診療録に関する研究。
  原価計算委員会：原価計算に関する情報交換。
  医療安全委員会：医療安全全般に係る情報の収集、分析、発信。
  地域医療委員会：地域の医療の在り方、地域医療支援病院に関する検討。
  個人情報保護委員会
  医療資材検討委員会
  薬事委員会
- ●分科会等　地域連携分科会、医療安全分科会、医療福祉連携講習会、医師事務作業補助者指導者養成講習会、クリティカルパスワークショップなどの開催。
- ●支　　部　各都道府県に支部を設置し、支部学術集会、研修会などの企画、運営。

入会申し込み

- ●一般正会員　学会の趣旨に賛同される個人
  - 年会費　医師・歯科医師　10,000円
    医療スタッフ・福祉・一般　7,000円
  - 主な特典　日本医療マネジメント学会雑誌（年間5冊出版）、News Letterの提供
- ●賛助会員　学会の趣旨に賛同される企業など
  - 年会費　100,000円
  - 主な特典　・一般正会員1名と同等の特典
    ・学会主催展示会で優先的に展示場所割当
- ●会計年度　本学会の会計年度は4月～翌年3月です。
- ●入会申し込み　所定の入会申込用紙に必要事項をご記入の上、郵送またはFAXにてお申し込みください。
  本学会ホームページからも入会手続は可能ですのでご利用下さい。

特定非営利活動法人
日本医療マネジメント学会

〒860-0806
熊本市中央区花畑町1番1号
大樹生命熊本ビル 3階
TEL:096(359)9099
FAX:096(359)1606
E-mail:jhm@space.ocn.ne.jp
http://jhm.umin.jp/

© 2023.7

設立の経緯

日本医療マネジメント学会は、1998年6月に発足したクリティカルパス研究会を基盤にして設立されました。クリティカルパス研究会は、クリティカルパスを中心にした医療マネジメントのノウハウやツールを研究・開発する目的で、有志の医療関係者が集まって活動していた研究会です。その活動は、1998年6月に第1回定例会を開催、1999年11月までに講演会等を含め14回開催されました。中でも1999年6月に開催した第1回クリティカルパス全国研究交流フォーラム（つくば市）では、約1,800名の参加者があり、医療マネジメントへの関心の高さを認識しました。これを契機に、クリティカルパスをはじめ医療現場の課題を取り上げ、研究活動の更なる拡大を目的に学会に移行し、今日に至ります。

沿革

1998年6月　第1回クリティカルパス研究会
「医療経営とクリティカルパスの活用」
9月　第2回クリティカルパス研究会
「医療の質とクリティカルパスの活用」
第3回クリティカルパス研究会
「ディジーズマネジメントとEBMとクリティカルパス」
1999年2月　第4回クリティカルパス研究会
「クリティカルパスと日本版DRG/PPSの実際」
4月　第5回クリティカルパス研究会
「米国病院視察報告と医療標準化のための薬剤投与パターンの標準化の試み」
6月　第1回クリティカルパス全国研究交流フォーラム（第1回学術総会）
【6月5日　つくば国際会議場
会長　小関 迪（筑波記念病院長）】
7月　第6回、第7回合同クリティカルパス研究会
「クリティカルパス第一世代から第二世代へ」
9月　第8回クリティカルパス研究会
「クリティカルパスの適用・非適用の条件を探る」
9月18日　医療マネジメント学会設立
11月　第9回クリティカルパス研究会
「高齢患者用クリティカルパスの作成と活用」
2000年3月～4月　学会設立記念セミナー全国7都市で開催
5月　医療マネジメント学会ホームページ開設
6月　第2回医療マネジメント学会学術総会
「さらなる医療の質の向上をめざして
ー第2世代のクリティカルパスー」
【6月9日～10日　熊本県立劇場
会長　宮崎 久義（国立熊本病院長）】
7月　第1回医療連携セミナー「地域医療連携の実際」
12月　第2回医療連携セミナー「地域医療連携の実際（2）」
2001年5月　第3回医療連携セミナー
「大学附属病院、地域医療支援病院の地域との医療連携」
6月　第3回医療マネジメント学会学術総会
「21世紀の医療サービスを考える」
【6月8日～9日　パシフィコ横浜
会長　小林 寛伊（NTT東日本関東病院長）】
9月　第4回医療連携セミナー
「急性期病院の外来と医療連携」
10月　第1回リスクマネジメント・セミナー
「患者の安全確保をめざして」
12月　第5回医療連携セミナー
「急性期病院の外来と医療連携（Ⅱ）」、
書籍「新たな医療連携の実践―その現状と方策―」発行
2002年1月　クリティカルパスセミナー
「クリティカルパスの導入と展開」（京都）
3月　第6回医療連携セミナー「急性期病院と外来分離」
5月　第2回リスクマネジメント・セミナー
「組織で取り組む医療安全」
6月　第4回医療マネジメント学会学術総会
「効率的で安心できる医療を実践するために」
【6月28日～29日　京都会館・京都市勤業館
会長　岡 隆宏（京都第一赤十字病院長）】
7月　書籍「急性期病院のあり方と外来分離」発行
9月　第7回医療連携セミナー「疾病別連携」
10月　第1回クリティカルパス実践セミナーin熊本、
第2回クリティカルパス実践セミナーin札幌
11月　第3回リスクマネジメント・セミナー
「リスクマネージャーの役割と分析方法論」
2003年1月　第1回電子カルテセミナー
「電子カルテ導入を目指して」
2月　第3回クリティカルパス実践セミナーin熊本、
第4回クリティカルパス実践セミナーin岡山、
書籍「クリティカルパス最近の進歩2003」発行
3月　第5回クリティカルパス実践セミナーin横浜、
第6回クリティカルパス実践セミナーin仙台
4月　第7回クリティカルパス実践セミナーin金沢
5月　第8回クリティカルパス実践セミナーin大阪、
第9回クリティカルパス実践セミナーin沖縄
6月　第5回医療マネジメント学会学術総会
「医療改革としての医療マネジメント」
【6月13日～14日　仙台国際センター
会長　山内 英生（国立仙台病院名誉院長）】
第8回医療連携セミナー
「地域医療支援病院の現状と課題」
書籍「クリティカルパス実践セミナーテキスト」発行
7月　第10回クリティカルパス実践セミナーin熊本、
第11回クリティカルパス実践セミナーin東京
9月　第9回医療連携セミナー
「地域医療支援病院と外来分離ー現状と課題ー」、
第12回クリティカルパス実践セミナーin福岡
10月　第13回クリティカルパス実践セミナーin姫路、
第1回「DPC対応型クリティカルパス」特別セミナー
11月　第4回リスクマネジメント・セミナー
「医療安全の新たな展開」
2004年1月　第2回電子カルテセミナー
「電子カルテシステムの導入のノウハウ」、
書籍「地域医療支援病院と医療連携のありかた」発行
2月　第14回クリティカルパス実践セミナーin熊本、
書籍「クリティカルパス最近の進歩2003」韓国版発行
4月　第15回クリティカルパス実践セミナーin熊本
6月　第6回医療マネジメント学会学術総会
「患者中心の医療を考える
ークリティカルパスのより良い、より広い活用法を求めてー」
【6月18日～19日　サンポートホール高松
香川県県民ホール
会長　原田 英雄（香川労災病院長）】
書籍「クリティカルパス最近の進歩2004」発行、
書籍「電子カルテシステムの普及に向けて」発行
7月　第2回「DPC対応型クリティカルパス」特別セミナー、
雑誌「医療安全」創刊
8月　第16回クリティカルパス実践セミナーin京都
9月　第10回医療連携セミナー
「地域医療支援病院と逆紹介」
10月　第17回クリティカルパス実践セミナーin熊本、
書籍「研修医のためのクリティカルパス活用ガイド」発行
11月　第5回リスクマネジメント・セミナー、
「リスクマネジメントの新たな展開」
2005年1月　第3回電子カルテセミナー
「DPC対応電子カルテシステム」
2月　第18回クリティカルパス実践セミナーin熊本
4月　第19回クリティカルパス実践セミナーin熊本
6月　第7回医療マネジメント学会学術総会
「安全かつ最良最適な医療の提供を目指して」
【6月24日～25日　福岡国際会議場 福岡サンパレス
会長　朔 元則（国立病院機構九州医療センター院長）】
雑誌「連携医療」創刊
7月　第20回クリティカルパス実践セミナーin名古屋
8月　特定非営利活動法人化
9月　第11回医療連携セミナー
「疾病別連携と連携クリティカルパス」、
書籍「臨床指標の実際」発行
10月　第3回「DPCとクリティカルパス」
特別セミナー「DPCと病院マネジメント」
11月　第6回リスクマネジメント・セミナー
「医療安全の課題とブレークスルー」
2006年1月　第4回電子カルテ分科会
「医療情報システムの標準化と情報保護」
2月　第21回クリティカルパス実践セミナーin熊本
5月　地域連携クリティカルパス分科会

6月　第8回日本医療マネジメント学会学術総会
「医療の安全と質ー医療・介護提供体制の改革をめぐってー」
【6月16日～17日　パシフィコ横浜
会長　高橋 俊毅（国立病院機構横浜医療センター院長）】
9月　雑誌「イザイ」創刊
10月　第22回クリティカルパス実践セミナーin熊本
11月　医療安全分科会
「カルテレビューと安全ラウンドの実践」
2007年2月　平成18年度第2回クリティカルパス実践セミナーin熊本
5月　平成19年度第1回地域連携クリティカルパス分科会
「地域連携クリティカルパスの効果的活用を目指して」
6月　日本学術会議協力学術研究団体指定
7月　第9回日本医療マネジメント学会学術総会
「医療のより良い提供体制とより良い利用方法を求めて
ー限りある医療資源を有効利用するためにー」
【7月13日～14日 グランドプリンスホテル新高輪
国際館パミール
会長　落合 慈之（NTT東日本関東病院院長）】
9月　平成19年度第1回クリティカルパス実践セミナーin熊本
11月　平成19年度第1回医療安全分科会
「チームで取り組む医療安全」
2008年2月　平成19年度第2回クリティカルパス実践セミナーin熊本、
平成19年度第2回地域連携クリティカルパス分科会
「脳卒中、がん、糖尿病、急性心筋梗塞における現状と課題」
5月　書籍「5日間で学ぶ 医療安全超入門」発行
6月　第10回日本医療マネジメント学会学術総会
「安全・安心・信頼の医療
～未来につづく地域医療連携～」
【6月20日～21日　名古屋国際会議場
会長　稲垣 春夫（トヨタ記念病院病院長）】
7月　平成20年度第1回クリティカルパス実践セミナーin神戸
9月　平成20年度第2回クリティカルパス実践セミナーin熊本、
平成20年度第1回地域連携クリティカルパス分科会
「地域医療連携と脳卒中における
地域連携クリティカルパスの現状と課題」
10月　平成20年度第1回医療連携分科会
「医療計画を理解する
～これからの地域医療連携の展望と課題」
11月　平成20年度第1回医療安全分科会
「医療安全はどこへ向かうのか
ーいま注目すべき症例検討会と医療メディエーションー」
2009年2月　2008年度第3回クリティカルパス実践セミナーin熊本、
2008年度第2回地域連携クリティカルパス分科会
「がんの地域連携クリティカルパスの実践と課題」
6月　第11回日本医療マネジメント学会学術総会
「新しい医療連携構築への展開
ー医療・保健・福祉の地域活性化をめざしてー」
【6月12日～13日　長崎ブリックホールほか
会長　米倉 正大（国立病院機構長崎医療センター院長）】
8月　2009年度第1回クリティカルパス実践セミナーin札幌
11月　2009年度第1回医療安全分科会
医療安全の基礎、信頼のコミュニケーションのすべて」、
2009年度第1回電子化分科会
「地域医療ネットワークのＩＴ化
-地域医療連携の現状とこれからのＩＴ化の展望を問う！」、
2009年度第1回医療連携分科会
「医療連携における薬剤情報ならびに物流を考える」
2010年2月　2009年度第2回クリティカルパス実践セミナーin滋賀
5月　2010年度第1回医師事務作業補助者講習会(第1、2クール)、
書籍「がん地域連携クリティカルパス
ーがん医療連携とコーディネート機能ー」発行
6月　第12回日本医療マネジメント学会学術総会
チームでめざすこれからの医療
-良質で安全な医療サービスの提供のために-」
【6月11日～12日　札幌コンベンションセンターほか
会長　秦 温信（札幌社会保険総合病院院長）】
7月　2010年度医療福祉連携講習会（第1クール）
8月　2010年度医療福祉連携講習会（第2クール）
9月　2010年度医療福祉連携講習会（第3、4クール）
10月　2010年度第1回クリティカルパス実践セミナーin仙台
2010年度医療福祉連携講習会（第5クール）、
2010年度第1回医療安全分科会
「医療安全のための根本原因分析とチーム医療のスキル」
11月　2010年度第2回医師事務作業補助者講習会(第1、2クール)、
2010年度第1回医療連携分科会
2011年1月　2010年度第2回クリティカルパス実践セミナーin岡山
4月　医療福祉連携士第1期生認定
5月　2011年度第1回医師事務作業補助者講習会(第1、2クール)
6月　第13回日本医療マネジメント学会学術総会
「地域で守る患者中心の医療ーチーム医療と医療連携」
【6月24日～25日　京都市勤業館みやこめっせほか
会長　香川 惠造（市立福知山市民病院院長）】
7月　書籍「医療安全のリーダーシップ論」発行、
2011年度医療福祉連携講習会（第1クール）
8月　2011年度医療福祉連携講習会（第2、3クール）
9月　2011年度医療福祉連携講習会（第4クール）
10月　2011年度第2回医師事務作業補助者講習会（第1クール）、
2011年度第1回医療安全分科会
12月　2011年度医療福祉連携講習会（第5クール）、
2011年度第2回医師事務作業補助者講習会（第2クール）
2012年2月　2011年度第1回クリティカルパス実践セミナーin大阪、
2011年度第1回医療連携分科会
6月　2012年度第1回医師事務作業補助者講習会（第1クール）
7月　2012年度第1回医師事務作業補助者講習会（第2クール）、
2012年度医療福祉連携講習会（第1クール）
8月　2012年度医療福祉連携講習会（第2、3クール）
9月　2012年度医療福祉連携講習会（第4クール）
10月　第14回日本医療マネジメント学会学術総会
「地域医療の復興と絆-チーム医療と地域連携をさらに進める
ヒューマンネットワーク作りを目指して-」
【10月12日～13日　アルカスSASEBOほか
会長　江口 勝美
（佐世保市立総合病院　病院事業管理者兼病院長）】
2012年度第2回医師事務作業補助者講習会（第1クール）
11月　2012年度医療安全分科会、
2012年度第2回医師事務作業補助者講習会（第2クール）
12月　2012年度医療福祉連携講習会（第5クール）
2013年2月　2012年度クリティカルパス実践セミナーin下関、
2012年度医療連携分科会
6月　第15回日本医療マネジメント学会学術総会
「とりもどそう　あたたかい故郷を
ー地域との協働で拓く医療の未来ー」
【6月14日～15日　マリオス（盛岡市民文化ホール）ほか
会長　望月 泉（岩手県立中央病院院長）】
2013年度第1回医師事務作業補助者講習会（第1クール）
7月　書籍「ねころんで読める
WHO患者安全カリキュラムガイド」発行、
2013年度第1回医師事務作業補助者講習会（第2クール）、
2013年度医療福祉連携講習会（第1クール）
8月　2013年度医療福祉連携講習会（第2クール）
9月　2013年度医療福祉連携講習会（第3、4クール）
10月　2013年度第1回クリティカルパス実践セミナーin青森
11月　2013年度医療安全分科会、
2013年度第2回医師事務作業補助者講習会(第1、2クール)、
2013年度医療福祉連携講習会（第5クール）
2014年2月　2013年度医療連携分科会
5月　2014年度第1回クリティカルパス実践セミナーin鹿児島、
2014年度第1回医師事務作業補助者講習会（第1クール）
6月　第16回日本医療マネジメント学会学術総会
「楽しく働くために　ー医療の進むべき姿を求めてー」
【6月13日～14日　岡山コンベンションセンターほか
会長　青山 興司
（国立病院機構岡山医療センター名誉院長）】
2014年度医療福祉連携講習会（第1クール）
7月　書籍「医療を管理する　安全を測る」発行、
2014年度第1回医師事務作業補助者講習会（第2クール）、
2014年度医療福祉連携講習会（第2クール）
8月　2014年度医療福祉連携講習会（第3クール）
9月　2014年度医療福祉連携講習会（第4クール）
10月　2014年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第1クール）
11月　2014年度医療安全分科会、
2014年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第2クール）、
2014年度医療福祉連携講習会（第5クール）
2015年2月　2014年度医療連携分科会
5月　2015年度医療福祉連携講習会（第1クール）、
2015年度第1回医師事務作業補助者講習会（第1クール）
6月　第17回日本医療マネジメント学会学術総会
「医療における不易流行　～変わらないもの、変わるもの～」
【6月12日～13日　グランキューブ大阪（大阪国際会議場）
会長　山根 哲郎
（パナソニック健康保険組合松下記念病院院長）】
2015年度第1回医師事務作業補助者講習会（第2クール）

7月　書籍「ストレス要因別
「防げたはず」のエラーが起こる瞬間」発行、
2015年度医療福祉連携講習会（第2クール）
8月　2015年度医療福祉連携講習会（第3、4クール）
10月　2015年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第1クール）
11月　2015年度医療福祉連携講習会（第5クール）、
2015年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第2クール）、
2015年度医療安全分科会
2016年2月　2015年度医療連携分科会、
2015年度クリティカルパス実践セミナーin仙台
4月　第18回日本医療マネジメント学会学術総会
「明るい病院改革
～改善とイノベーションで切り拓く明日の最適医療～」
【4月22日～23日　福岡国際会議場　福岡サンパレス
会長　田中 二郎（飯塚病院名誉院長）】
6月　2016年度医療福祉連携講習会（第1、2クール）、
2016年度医師事務作業補助者講習会（第1クール）
7月　2016年度医療福祉連携講習会（第3クール）、
2016年度医師事務作業補助者講習会（第2クール）
8月　2016年度医療福祉連携講習会（第4クール）
9月　書籍「そのときどうする！？
予期せぬ急変・死亡時の現場対応マニュアル」発行
10月　2016年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第1クール）、
2016年度医療福祉連携講習会（第5クール）
11月　2016年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第2クール）、
2016年度医療安全分科会
2017年2月　2016年度医療連携分科会
5月　2017年度医師事務作業補助者講習会（第1クール）
6月　2017年度医師事務作業補助者講習会（第2クール）
7月　2017年度医療福祉連携講習会（第1クール）、
第19回日本医療マネジメント学会学術総会
「地域を守るあたたかな医療
～患者・職員の満足をめざして～」
【7月7日～8日　仙台国際センター
会長　田所 慶一
（国立病院機構仙台医療センター名誉院長）】
書籍「ガマンしない、させない！
院内暴力対策「これだけは」」発行
8月　2017年度医療福祉連携講習会（第2、3クール）
10月　2017年度医療福祉連携講習会（第4クール）、
2017年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第1クール）
11月　2017年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第2クール）
12月　2017年度医療福祉連携講習会（第5クール）
2018年1月　2017年度医療安全分科会
2月　2017年度医療連携分科会
6月　第20回日本医療マネジメント学会学術総会
「信頼 -地域に根ざした強いチーム力を培う-」
【6月8日～9日　ニトリ文化ホールほか
会長　磯部 宏（KKR札幌医療センター病院長）】
2018年度医療福祉連携講習会（第1クール）
7月　書籍「患者・家族の意思決定、現場の判断を支える
“やさしい”臨床倫理フレームワーク」発行
8月　2018年度医療福祉連携講習会（第2クール）
9月　2018年度医療福祉連携講習会（第3、4クール）
10月　2018年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第1クール）
11月　2018年度医療福祉連携講習会（第5クール）
12月　2018年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第2クール）
2019年1月　2018年度医療安全分科会、
2018年度クリティカルパスワークショップ
2月　2018年度医療連携分科会
6月　2019年度医療福祉連携講習会（第1、2クール）
7月　第21回日本医療マネジメント学会学術総会
「私たちの働き方改革
～良質で成熟した日本の医療をめざして～」
【7月19日～20日　名古屋国際会議場
会長　絹川 常郎（地域医療機能推進機構中京病院院長）】
8月　書籍「臨床事例で学ぶコミュニケーションエラーの
“心理学的”対処法」発行、
2019年度医療福祉連携講習会（第3クール）
9月　2019年度医療福祉連携講習会（第4クール）
10月　2019年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第1クール）
11月　2019年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第2クール）
12月　2019年度医療福祉連携講習会（第5クール）
2020年1月　2019年度医療安全分科会
2月　2019年度クリティカルパスワークショップ、
2019年度医療連携分科会
10月　第22回日本医療マネジメント学会学術総会
「病院ビッグデータ革命　～データ活用による「医療の質」「医療・介護連携」の飛躍（Leap）を求めて～」
【10月6日～7日　みやこめっせ(京都市勧業館)ほか
会長　三木 恒治（済生会滋賀県病院院長）】
書籍「医療安全研修テーマ・実践例集
研修が活性化する計画から実施のコツまで」発行
2021年**7月　第23回日本医療マネジメント学会学術総会**
「今、医療・介護に大切なこと ～変革に挑戦する～」
【7月15日～30日　完全Webオンデマンド配信
会長　亀山 雅男
（社会医療法人生長会ベルランド総合病院理事長）】
9月　2021年度医療福祉連携講習会（第1クール）
10月　2021年度医療福祉連携講習会（第2クール）
11月　2021年度医療福祉連携講習会（第3クール）
2022年1月　2021年度医療福祉連携講習会（第4クール）
5月　2021年度医療福祉連携講習会（第5クール前期）
7月　第24回日本医療マネジメント学会学術総会
「持続可能な地域医療を目指して
～機能分化・連携と人材マネジメント～」
【7月8日～9日　神戸ポートピアホテル　神戸国際会議場
会長　大西 祥男（地方独立行政法人加古川市民病院機構理事長 兼 加古川中央市民病院院長）】
11月　2021年度医療福祉連携講習会（第5クール後期）
2023年2月　2022年度地域連携分科会
6月　第25回日本医療マネジメント学会学術総会
「『病院医療の展望』～「パンデミック・災害とBCP」から「求められる医療」へ～」
【6月23日～24日　パシフィコ横浜
会長　山本 登
（横浜メディカルグループ菊名記念病院理事長）】
7月　書籍「医療・看護現場の心理的安全性のすすめ」発行

学会の活動

- 学術総会の開催
- 日本医療マネジメント学会雑誌の発行（5冊／年）
- News Letterの発行
- 書籍発行
- 地域連携分科会、医療安全分科会、医療福祉連携講習会、医師事務作業補助者指導者養成講習会、クリティカルパスワークショップなどの開催
- 保健医療政策に対する関係機関への働きかけ
- 委員会の開催
- 支部学術集会の開催

第26回日本医療マネジメント学会学術総会
2024年6月21日（金）～22日（土）
福岡国際会議場、福岡サンパレス
会長：中房　祐司
（福岡赤十字病院院長）

日本医療マネジメント学会への入会のご案内（郵送またはFAXによる申込方法）

※ホームページからの入会方法はhttp://jhm.umin.jp/ をご覧下さい。

入会申込(一般正会員及び賛助会員):入会されますと退会の申し出があるまで自動継続になります。

◎**一般正会員**　学会の趣旨に賛同される個人

年 会 費　医師・歯科医師　10,000円

医療スタッフ・福祉・一般　7,000円

主な特典

・日本医療マネジメント学会雑誌（年間5冊出版）、News Letter提供

手 続 き

一般正会員のお申込は、次頁の一般正会員入会申込書を記入し、郵送またはFAXにて学会事務局までお送り下さい。

入会申込書受理後、学会事務局より年会費の払込取扱票をお届けしますので、郵便局またはコンビニエンスストアでお振り込み下さい。年会費のご入金確認後、学会会員番号通知をお届けします。学会会員番号通知がお手元に届きましたら、手続きは完了です。

メールアドレスをご登録頂いた方には、年会費のご入金確認後、メールにて会員マイページのご案内をお届けします。会員マイページにログイン後、学会会員番号をご確認頂けます。

なお、一般正会員の入会申込は学会ホームページからも可能です。

※入会申込を頂いてから、学会会員番号通知がお手元に届くまで10日ほどかかります。

◎**賛助会員**　学会の趣旨に賛同される企業など

年 会 費　100,000円

主な特典

・一般正会員1名と同等の特典

・学会主催展示会で優先的に展示場所割当

手 続 き

賛助会員のお申込は、別途所定の申込用紙がございますので学会事務局までご連絡下さい。

※ 会計年度は4月～翌年3月です。年度途中の入会であっても年会費全額を納入して頂きます。

※ 入金された日が入会日となります。

※ 一度入金された年会費は返金できませんので、ご注意下さい。

※ 過去に本学会会員となられ、年会費の滞納を理由に退会された方が、再入会を希望される場合は、滞納分年会費をお支払い頂く必要がございます。入会申込書受理後、学会事務局より滞納分と新規入会分を合わせた年会費の払込取扱票をお届けいたします。

※ 退会希望の場合、退会希望年度の末日(3月31日必着)までに退会手続きをして下さい。

【日本医療マネジメント学会一般正会員入会申込書】

（郵送または FAX でのお申込）

日本医療マネジメント学会事務局　宛　〒860-0806 熊本市中央区花畑町 1-1　大樹生命熊本ビル 3 階
FAX　096-359-1606　TEL 096-359-9099　E-mail jhm@space.ocn.ne.jp

<table>
<tr><td>入会申込日</td><td colspan="4">年　　月　　日</td></tr>
<tr><td>会員種別</td><td colspan="4">□　医師・歯科医師　　□　医療スタッフ・福祉・一般　（いずれかに✓）</td></tr>
<tr><td>ふりがな</td><td colspan="2"></td><td colspan="2">性　別（いずれかに✓）</td></tr>
<tr><td>氏名</td><td colspan="2"></td><td colspan="2">□男　・　□女</td></tr>
<tr><td rowspan="7">勤務機関</td><td>名称</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>所属・役職</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>職種
（いずれかに○）</td><td colspan="3">1.医師・歯科医師　2.看護師・保健師・助産師　3.薬剤師　4.臨床検査技師
5.診療放射線技師　6.理学療法士　7.作業療法士　8.言語聴覚士　9.臨床工学技士
10.管理栄養士　11.社会福祉士　12.精神保健福祉士　13.診療情報管理士
14.事務　15.企業　16.その他（　　）</td></tr>
<tr><td>所在地</td><td colspan="3">〒</td></tr>
<tr><td>電話番号</td><td></td><td>FAX 番号</td><td></td></tr>
<tr><td>E-mail</td><td colspan="3">※同一のメールアドレスを複数人で使用することはできませんので
個人のメールアドレスをご記入ください。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">自宅</td><td>住所</td><td colspan="3">〒</td></tr>
<tr><td>電話番号</td><td></td><td>FAX 番号</td><td></td></tr>
<tr><td>連絡先</td><td colspan="4">□　勤務先　　□　自宅　（いずれかに✓）　　※学会雑誌の送付先となります。</td></tr>
<tr><td>生年月日</td><td colspan="4">（西暦）　　年　　月　　日</td></tr>
<tr><td>事務局
使用欄</td><td colspan="3"></td><td>受付印</td></tr>
</table>

第26回

日本医療マネジメント学会 学術総会

The 26th Annual Meeting of the Japan Society for Health Care Management

信頼と調和による医療マネジメント

～地域と共に質の高い、安全な医療をつくる～

会期 2024年6月21日(金)・22日(土)

会場 福岡国際会議場 〒812-0032 福岡市博多区石城町2-1
福岡サンパレス 〒812-0021 福岡市博多区築港本町2-1

会長 中房 祐司（福岡赤十字病院　院長）

学術総会事務局：福岡赤十字病院 〒815-8555 福岡市南区大楠3-1-1
TEL：092-235-4587　FAX：092-522-3066（代表）

学術総会運営事務局：株式会社コングレ 九州支社内 〒810-0001 福岡市中央区天神1-9-17 福岡天神フコク生命ビル11F
TEL：092-718-3531　FAX：092-716-7143　E-mail：jhm2024@congre.co.jp

http://www.congre.co.jp/jhm2024/

協賛企業（アイウエオ順）

アステラス株式会社
株式会社ツムラ
武田薬品工業株式会社
第一三共株式会社

URL http://userweb.shikoku.ne.jp/takobaya/jhmes/index.html

Japan Society for Health Care